

TSUKU COM

[ツクコム]

Tsukuba
COMMUNICATIONS



筑波大学

2015
Summer

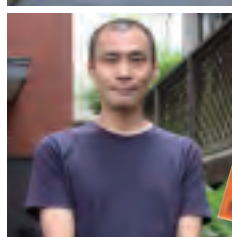
28

対談・茶の湯の文化とおもてなし

遠州茶道宗家十三世家元

副学長

小堀 宗実氏 × 伊藤 眞



- 08. 世界遺産／file#4 小笠原諸島
- 10. 聴／原田悦子 教授
- 12. OB&OG／ヨシタケシンスケ 氏
- 14. 学内組織紹介／数理物質融合科学センター
- 16. 名物先生登場／坂本茂 教諭
(附属桐が丘特別支援学校)
- 18. 躍動する! 筑波大生
- 20. Homeland／ブラジル連邦共和国
- 22. TOPICS
- 27. 茗溪会・紫峰会
- 28. リレーエッセイ
- 30. 新聞掲載・テレビ放送一覧
- 31. イベントカレンダー



写真: 望月仁/アフロ

A photograph of two men standing in a traditional Japanese room. The man on the left is wearing a black kimono over a light-colored shirt and a dark brown hakama. The man on the right is wearing a dark suit with a white shirt and a patterned tie. They are standing in front of a large window with a wooden frame and a white lattice pattern. The window looks out onto a lush green garden with a stone path and a wooden fence. The room has a tatami floor.

対 談

茶の湯の文化と おもてなし

遠州茶道宗家十三世家元

副学長

小堀 宗実氏 × 伊藤 眞

伊藤：本日はお忙しい中ありがとうございます。家元とは、学習院の中等科から大学まで一緒でした。学生時代は剣道部でご活躍されていましたね。私は野球部でしたけれど、当時の野球部は弱かった(笑)。

小堀：息子はずっと野球をやっていますよ。クリーンナップを打っていて、応援に行くのが楽しみです。ところで、4月から筑波大学の副学長になられたそうですね。私は学習院の評議員と理事を長い間仰せ付かっておりますが、執行部に教職員からお入りになる方を見ていると、そういう方は、任期中はほとんどその仕事にかりきりのような感じです。副学長になられてとても大変なのではないですか？なかなか自分のことができないでしょう。

伊藤：そうですね。授業は、大学院だけを残して、後は同僚が助けてくれます。筑波大学は、全国の大学の改革を先導するミッションを担っており、現在、さまざまな改革を進めています。また、文科省のスーパーグローバル大学創成支援のトップ型に、全国13大学の一つとして採択され、国内外の大学との教育研究におけるトランスポーター化をこれまで以上に促進し、グローバル人材の育成に力を注いでいます。グローバルな視点を身に付けるには、まず日本の文化伝統というものを正しく理解し、認識する必要があることは言うまでもありません。そして初めて、異文化との対話、異文化理解というステップに進めるはずですから。私は、日本の伝統文化を凝縮しているのが茶道だと考えています。今回、家元に対談をお願いしたのは、茶道の家元のお話が、グローバル化を目指す筑波大学の教職員や学生にとって参考になると思ったからです。

遠州流茶道の真髄 「綺麗さび」

伊藤：家元は、430余年の伝統を持つ遠州茶道家宗家の13代目でいらっしゃいます。数ある茶道の中でも、遠州流茶道は、非常に格式の高い武家茶道として知られていますが、流派の特徴を教えてくださいませんか？

小堀：格式が高いとって、難しいイメージになってしまうと困るんですけどね。遠州流茶道の流祖は、戦国時代の終わりに生まれた小堀遠州です。今も滋賀県長浜市に小堀町というところがあるのですが、小堀家は地域一帯を治める豪族でした。遠州の父小堀新介は、家康に会って、「これでいよいよ世の中が安定して、平和な時代になる。文武の文の方がこれから非常に重要になってくる」と直感したんですね。それで、遠州は幼少時代から文の部分の英才教育を受けて育ちました。幕藩体制が確立し、大名として、徳川將軍家の茶道指南役になり、作事奉行として、築城などの建築関係でも非常に優れた業績を残しています。

伊藤：桂離宮や二条城、名古屋城など、日本を代表する建築物を作られたことで有名ですね。

小堀：遠州流茶道の一番の特徴は、「綺麗さび」という言葉です。茶道というと、千利休に代表されるように「わび・さび」の世界と言われます。要するに、できるだけ無駄なものを省いていった世界です。そういう世界は、戦争が激しく、下克上の世の中で、「今日生きていても、明日はどうなるかわからない」という厳しい時代には、精神的なよりどころとしてよかったのだと思います。

伊藤：遠州は、徳川將軍家の茶道指南役ということですから、世の中が安定してきた時代にご活躍された…。

小堀：はい。遠州の時代は、戦争で廃虚になったところから世の中を新しく作っていくという時代でした。人々の心が安定してきて、茶道も、豊かさや明るさ、美しさなどが求められるようになりました。「綺麗」という言葉は、品があるという意味でもありますし、開放的という意味でもあります。遠州は、それまで閉鎖的だった茶室に、窓をたくさん作りました。茶室の中での会話が、戦国時代の「誰を倒して、誰が一番になっていくか」という密談から、「これから何を作っていくか」という話になって、オープンにできるようになったということもありますね。窓から光がたくさん入ると、会話も弾みます。

伊藤：なるほど。

小堀：お茶室に入る人数も、利休の時代

は1対1とか、1対3くらいが多いのですが、遠州は、1対5くらいが多かった。5人というのは、非常に重要な数字で、5人より少ないと1つの話題に集中してしまいすし、多いと、2つの話題に分かれてしまったりします。5人は、ちょうどいいまとまりを見せるのですね。そして、遠州のお茶会の特徴は、その5人の中に、大名がいて、お付の家老がいて、真ん中に僧侶がいて、商人や職人がいることです。あらゆる分野の人が1つの茶室に入って、情報を共有していました。それから、遠州は、お道具に、日本各地で造られたものを始め、中国や朝鮮半島、東南アジア、ヨーロッパのものまで取り入れました。

伊藤：鎖国時代の日本で、グローバルな視野を持っていたらしゃったのですね。

小堀：いろいろな国のものを一つの席に持ってきて、一定の空気感を出すように調整するのは、簡単なことではありません。洗練された感性を持ってないといけません。さまざまな要素を取り入れて、全てを調和させていくというのも「綺麗さび」というお茶なのです。

伊藤：江戸時代の社会的な状況にマッチしながらできた茶道ということですね。

小堀：そうです。遠州にはいろいろな階層の方々との広いネットワークがありました。後水尾天皇やお公家さん、その当時勢力があったお寺のお坊さんとも親交がありました。対立している権力者のどちらとも親しくしていて、調整役になることも多かったようです。

伊藤：遠州さんの人間的な広さや奥ゆかしさ、教養の深さなどが多くの方を引き付けたのでしょうね。

小堀：みんなを引き付けるためには、あらゆる要素をお茶室の中に用意しておく必要があります。利休は、自分がこれだと決めたら、秀吉が何を言おうと跳ね返したので、軋轢が生まれました。しかし、遠州の場合は、たくさんいろいろなものを用意しておくので、誰もが、自分の好きなものを見つけることができます。そうすると和みますよね。いろんなことを知っていないといけないので、遠州の方が大変ということもあるのですけれど。「綺麗さび」というお茶はそういうスタイルです。



こ ぼり そ う じ つ 小堀 宗実氏

遠州茶道宗家十三世家元

1956年 東京都 生まれ
1979年 学習院大学法学部卒業
1981年 臨済宗大徳寺派桂徳禅院にて禅の修業を積み、
大徳寺518世福富以清禅師より「宗以」の号を授かる
1983年 副家元に就任
2000年 福富雪底・大徳寺派管長から「不傳庵 宗実」の号を授かる
2001年 13世家元を継承
2008年 学習院父母会長就任
2014年 小堀氏が題材のドキュメンタリー映画「父は家元」公開

洞察力と集中力で 「おもてなし」

伊藤：筑波大学は、これまでオリンピック・パラリンピックにさまざまな形で協力してきました。例えば、日本女子バレーボールチームの眞鍋政義監督が、タブレット端末を持って、試合中にデータを閲覧しながら選手に指示していますけど、あのシステムを開発したのは筑波大学です。それから、ロンドンオリンピックのフェンシングで銀メダルを取った時のスパイクの開発などにも協力したと聞いています。2020年のオリンピックを東京に招致する際には、全国の大学のトップを切って、招致運動を展開しました。現在も、体育系の教員を中心に、オリンピック・パラリンピック開催

に向けて文科省ともさまざまなかたちで連携しています。その一環といえるかもしれませんが、本学では「おもてなし学」という授業も開講しています。「おもてなし」という言葉は、2020年東京五輪・パラリンピック招致の際に、ひとつのキーワードになりましたよね。この授業では、国際人として、日本の文化と歴史、礼儀作法の成り立ちを理解し、正しく伝えられる知識を身につけることや、諸外国の習慣などを尊重して異文化コミュニケーションの原点を理解することなどを目指しています。茶道には「おもてなし」というイメージがありますが、家元は「おもてなし」についてどのような考えをお持ちですか？

小堀：「おもてなし」というと、迎える側がお客様第一主義で、なんでも全てお客

「気持ち配る人が行ったり来たりすることでおもてなしの空間が成立します」

様の言う通りにするというように勘違いしやすいのですが、茶道の場合の「おもてなし」はそうではありません。お客様をお迎えする側～茶道では亭主と言います～とおお客様の両方の思いがないと成立しない。どちらか一方の思いだけが強すぎると、アンバランスで、いい空間にならないのです。日本の伝統文化の中でも、能楽や狂言、歌舞伎などの舞台の芸術は、演じる方たちがいて、お客様は一方的に見ているだけです。観客は舞台に上がることはできません。しかし、茶道の場合は、亭主がお茶をたてたりお食事を出したりと、いろいろな動きをしますが、お茶を一服差し上げた瞬間に、お客様がその茶碗を取り上げて、お茶を召し上げるわけです。お茶碗が渡っている間の動きはお客様の時間になり、客側が亭主に質問したり、道具を褒めたりと気を配るのです。そして一服が終わると、主導権はまた亭主に戻ります。気持ちを配る人が行ったり来たりすることによって、おもてなしの空間が成立するのです。

伊藤：おもてなしというと、どうしても受け手側の気持ちがほとんどすべてという感じですが、実はそうじゃないのですね。

小堀：茶道でなくても、一方的にどうですかとサービスするのでは、本当のおもてなしにならないと思います。お客様が何かを選べるとか、感じて何か返せるような、受け手が主体になる余地を残しておく必要があります。受け手に返されたことが、予定通りでない場合もあるかもしれませんが、そこは軌道修正しながらお返ししていくというのが本当のおもてなしなのではないでしょうか。

伊藤：おもてなしというのは、送り手と受け手の調和関係が一番大事というのは、非常に貴重なお話です。

小堀：私はいつも、茶道の先生方に、大切なことは、洞察力と集中力の2つだと話しています。相手が何を今求めているのか、あるいは、どういうことが苦手なのかということ集中して観察し、ちょっとした動きでそれを感じ取って、何かを返していくということがすごく大事です。

伊藤：そのようなことを苦手とする人が増えている気がしますね。

小堀：昔の日本人は、日常生活のいろ

いろいろな場面で、お互いに集中して観察する機会があったと思います。最近はそのような機会が減ってきました。ネット社会になったということも影響して、人と人が向き合うことが苦手になってきています。しかし、茶道は、必ず同じ空間にいないわけにはいきません。それを助けるものとして、お道具や掛物、お花があったりしますから、これらを介しながら、人と人がしっかりと向き合うことができます。そこに茶道のよさというのがあります。

伊藤：茶道というのは、そういう意味で非常に重要な役割を果たしてきましたし、これからも果たしていくでしょうね。

自分で気付くように 誘導する

伊藤：430年もの歴史がある茶道を伝承していく上で、社会状況とか文化によって、「変わらなければならない部分」と「変えてはならない部分」があると思います。そのあたりはどのようにお考えですか？

小堀：昔とかなり変えたのは、教えるという部分です。昔は「こうしなさい」「こうしてはいけません」という教え方をしていました。しかし、私は、指導されている人が成長していく中で「この場面はそうじゃないだろう」と自分で気付くように誘導することが大事だと考えています。

伊藤：相手が気付くようにうまく持っていくのは大変です。

小堀：自然に持っていけるのが理想的ですけど、習う人の個性はみんな違います。叱咤激励を必要としている人もいるだろうし、反対の人もいるでしょうから、なかなか難しいですよ。昔より、先生の方が勉強しないといけないという時代だと思います。

伊藤：大学の教壇に立っていても、同じようなことが言えると思います。昔は、教師が教壇で一方的に話し、学生たちはただ黙って聞いていました。しかし、最近の学生は、こちらがある程度手を差し伸べるなり、うまく誘導したりしていないと、なかなか伸びていきません。教師の方も、絶えず教え方について考える必要があります。

小堀：大学の場合は4年、大学院に入ればもう少しあるだろうけれど、期間が短いのでからね。茶道の場合は、10年とか15年とか、長い年月をかけて師弟関係が結ばれる場合もありますから、気付きを待つような教え方もありかなと思います。

伊藤：家元は、大学を卒業された後、お寺で1年間修行されたそうですね。

小堀：父親の勧めで、世俗と一度けじめをつける意味で、練馬にある臨済宗大徳寺派桂徳院の福德以清和尚の下で修行をしました。この間に藤原定家の書の稽古もしましたし、とても充実した1年でした。その頃の書はまだまだでしたけれど。

伊藤：家元は書家でもいらっしゃいます。

小堀：遠州流では、新古今和歌集の藤原定家の書体を大切にしていって、

代々伝統を受け継いできています。これも遠州流茶道の特徴です。



座右の銘：和光同塵（わこうどうじん）

「光を和らげ、塵と同じくする。老子の言葉です。優れた人であればあるほど、そういうものをむしろ隠して、みなさんのところに、いろいろなものを広めていきたいと思います、という意味であると解釈しています」(小堀氏)

「筑波大学では『おもてなし学』という授業を開講しています」



いとう まこと
伊藤 真
副学長

1956年 東京都生まれ
1979年 学習院大学文学部卒業
1984年 学習院大学人文科学研究科ドイツ文学専攻 博士後期課程修了
1984年 福岡大学人文学部専任講師
1991年 筑波大学現代語・現代文化学系講師
2005年 筑波大学人文社会科学部教授
2012年 筑波大学人文・文化学群長
2015年 筑波大学副学長(教育)

茶道を通じた 海外との文化交流

伊藤：家元は、茶道を世界に広めることや、茶道を通じた海外との文化交流にも積極的でいらっしゃいます。

小堀：ポーランド、ハンガリー、アメリカ、ミャンマー、スロバキアなど、今までに十数カ国でデモンストレーションをしたことがあります。

伊藤：国によって反応の違いはありますか？

小堀：多少はあります。今年は久しぶりにフランスに行きますが、フランスの人というのは、パッとにぎやかなものも好きだけれど、文化・芸術に対して深く理解してくれます。でも、昔より国単位の違いは少なくなってきましたし、茶道への理解も深まってきたという感じがします。ですから、以前は、パフォーマンスとしてのお点前がメインでしたが、最近は、意味や気持ちを伝えるようにしています。「このお茶碗がこのような形をしているのはなぜか」というような話をしても、とてもよく理解していただけます。

伊藤：茶道のグローバル化が進んだのですね。

小堀：ブタペストでデモンストレーションをした時に、日本の映画が大好きという方から、「あなたのお点前を見ていて、小津安二郎の映画の、何とも言えないゆったりとした演出の仕方が理解できました」と言われたことがあります。これはやはり、日本の「間」とか「呼吸」なのでしょう。

伊藤：世界への発信といえば、ドイツのシュタイフ社とコラボレーションして、「茶道ディベア」を発売されたそうですね。



「おもてなし」をディベアで表現した「茶道ディベア」
全長22センチ、台座付。世界限定1500体。
素材：シルク/ポリエステル/コットン（シリアルナンバー入り証明書付属）

小堀：先ほどお話が出たように、2020東京五輪招致で「おもてなし」という言葉が世界的に知られるようになりました。それで、ドイツのぬいぐるみの老舗シュタイフ社から、私のところに、「おもてなし」をディベアで表現したいから協力してほしいというお話が来ました。シュタイフ社は、毎年、企画限定物のディベアを製作しているのです。シュタイフ社と遠州流茶道がコラボレーションして誕生したのがこの「茶道ディベア」です。日本人形をイメージして、遠州流の家紋が入ったピンクの絹の振袖を着て、お茶碗を運んでいる様子のディベアを作りました。

「先取りの精神」と 「名残を惜しむ気持ち」を 大切に

伊藤：最後に、筑波大学の教職員と大学生に、これから豊かに生活していくという意味で、何かメッセージをお聞かせください。

小堀：日本でグローバルというと、どうしても、向こうの情報を仕入れたり、海外のスタイルばかりを取り込もうという気持ちがあります。実は昔もそうでした。しかし、日本人は、そうした中で、自分の中で消化し、新しいものを生み出してきたのです。茶道もまさしくそうです。お茶





をいただく喫茶という習慣が中国の方から入ってきて、日本の中で吸収されてこなされて、茶の湯、茶道というものが生まれました。鎖国をしていた時代でさえ、あらゆるものを見ながら、自分のものに変えていました。戦争の後は、アメリカの強い影響を受けましたが、そういう中でも、世界に負けない日本になるためにいろいろな努力をして、日本のものをたくさん生み出してきました。ところが、最近では、そういう力が弱まってきているし、アジアの中でも一番でなくなってきた部分もあります。ですから、グローバル化も大切ですが、一方で、ここで一度立ち返り、筑波大学を出た

人が、彼らの言葉で、「日本の伝統的な文化はこうなんですよ」と語れる人になってほしいと思います。

伊藤：本当にそうですね。

小堀：日本のいいところは大きく2つあると思います。1つは先取り精神。お料理も服装も、ちょっと季節の先取りをする文化があります。その先取りの精神からさまざまなものが生まれてきました。もう1つは、名残惜しむという気持ちです。振り返る、後退するという意味ではありません。名残惜しむという気持ちは、物に対しても人に対しても、愛着というか、愛情というか、そういう気持ちにつながります。名残惜しむ気持ちが

あると、自分の家族を大切に、自分の地域を大切に、自分の国を大切にする。そして、そういう気持ちが根本に備わっている人たちが世界に出て行くことによって、グローバル人材として、世の中に、世界に貢献できるのではないかと思います。そういうことを、語学だけでなく、テクニックだけでなく、学んでいかればいいのかと思います。それから、やはり、世界に出たときに、多くの方に尊敬される日本人でいてもらいたいですね。

伊藤：本日は、お忙しい中ありがとうございました。

世界の文化遺産を守るための研究対象として、筑波大学は多くの世界遺産とのつながりがあります。文化財の価値や保存活動の一端を、現地でのフィールドワークの様子なども交えて紹介していきます。



file #4

小笠原諸島

東洋のガラパゴスとも言われる小笠原諸島には、固有の生物種が数多く生息する独特の生態系があります。世界自然遺産の国内候補になる前から現地の生態系調査に携わり、今も小笠原の科学委員会メンバーとして調査研究を続ける吉田正人教授(芸術系)に、その自然遺産としての価値や保護活動についてお聞きしました。



開発計画から発見した進行中の進化

大小30あまりの島々からなる小笠原諸島。1972年に国立公園に指定されたものの、雨が少ないため、特に標高の低い兄島では背の高い樹木が育たず、自然風景としてはあまり評価されていませんでした。それで、空港の建設計画が浮上しました。

1990年代、この計画をきっかけに詳しい環境調査を行ったところ、世界でここにしかないカタツムリ類が続々と発見されました。しかも、木の上に棲むものは緑色、地面に棲むものは茶色など、同じ島の中でも、環境の違いで別々に進化する現象「適応放散」がみられました。小笠原諸島は海洋島、つまり誕生以来、一度も他の陸地とつながったことがなく、そこに棲む生

物は、鳥か海流か風のどれかに運ばれてきたものだけ。対立する種もなく、それぞれの場所で独特の進化を遂げたのです。それが世界自然遺産に足る価値(生態系や動植物群集の進化、発展において、重要な進行中の生態学的過程または生物学的過程を代表する顕著な見本)として認められ、2011年に世界遺産リストに記載されました。

外来種との果てしない戦い

小笠原諸島に人が住むようになったのは19世紀中ごろのことです。江戸幕府が17世紀に探検をした記録が欧米に伝わり、まずハワイからの移住が始まりました。日本の領土になる前は多様な移住者や文化が混在しており、その名残が欧米系の名字などに今も見られます。

人やモノの往来は、ヤギ・ネズミ・ネコをはじめ、それまで島にはなかった動植物を持ち込みました。オガサワラゼミやオガサワラシジミ、アカガシラカラスノバなど、天敵のいない島でのんびりと生きてきた固有種は、これら外来種に捕食されたり、生存競争に負け、次々と絶滅の危機に陥りました。小笠原の自然保護活動は、外来種との戦いに他なりません。

小笠原村では条例を作り、ネコが野生化しないよう飼いを主を特定するなど管理を徹底しました。しかし、一度は完全に駆除したはずのネズミが、近年再び増えていますし、貨物や建設資材に紛れてアリやトカゲも入ってきます。外来種のカタツムリを捕食させようと導入した肉食プラナリアが、固有種にまで害を及ぼしています。限られた種で構成される単純な生態系では、外来種の影響はまたたく間に広がってしまうのです。対応が遅れないよう、常にモニタリングを続けています。



小笠原固有の昆虫を捕食する
北米原産のグリーンアノール

エコツーリズム先進地へ

小笠原諸島へのアクセスは、1隻ずつの客船と貨物船だけ。しかも東京から片道25時間の長旅です。観光で1往復するには最低でも6日かかります。それでも、世界遺産登録の直後は観光客が急増し、受け入れが追いつかない事態になりました。そこで小笠原海運は、船旅の快適性や、宿泊施設の収容能力など、観光の質を保つために、客船の定員を1000人から750人に減らし、観光客の流入を制限しています。

年中、海水浴ができる気候とはいえ、世界遺産登録前の観光客は夏に集中していました。かつては捕鯨基地として知られた小笠原では、世界的な鯨保護の流れの中で転換を図り、日本で初めてホエールウォッチングを開始。これによって、季節を問わずに観光客が訪れるようになりました。今ではホエール



自然遺産演習で南島ガイドツアーに参加した本学学生

ウォッチングやドルフィンスイムなど海上でのアクティビティから、無人島に上陸するコースまで、さまざまな観光ツアーが用意され、エコツーリズム先進地としての地位を築いています。そのカギとなるガイドの養成にも取り組み、単なる道案内や動植物の説明ではなく、島の歴史や文化的背景、自然に対する配慮も含めた丁寧な解説で、参加者に深い自然体験を提供しています。

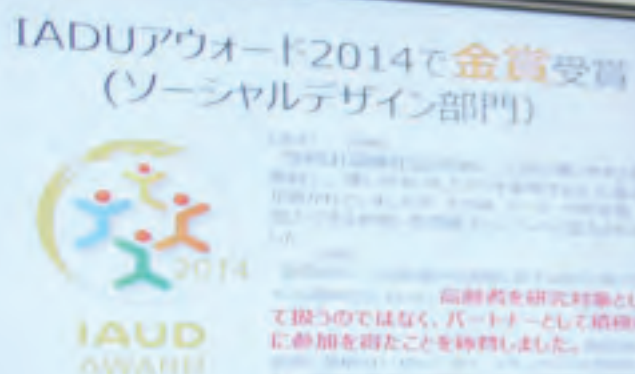
人と共存する自然保護

観光は小笠原のメイン産業である一方、観光客が外来種を持ち込む可能性は重大です。家族として連れてくるペットや、荷物や衣服についた小さな虫、一見何でもないことが、島では大きな危険になり得ます。肝心なのは船に乗り込む前。靴底を洗うなどの外来種対策を徹底し、特別な島へ行くという意識付けと、島内でのルールを周知します。また、立ち入りできる場所や1回あるいは1日の参加者数を制限したり、固有種の繁殖期を避けるといった、観光ツアーのルールを定めています。観光客も自然保護活動の一端を担う重要なプレーヤーです。

そこに人の暮らしがある以上、生態系への影響は必ず生じます。生活環境を大きく変えることなく外来種を駆除し、現在の生態系を守っていくことが目標です。世界遺産に登録されたことで、国・東京都・小笠原村の協力関係が確立し、自然保護活動へのサポート体制も充実しました。本学では、世界遺産専攻や自然保護寄附講座の演習で、現地の外来種対策やエコツーリズムを研究しています。島民、行政、観光客、研究者、多くの人々が、ダイナミックに変化する小笠原の生態系を見守り、貴重な固有種の保護を支援しています。



自然遺産演習でサンクチュアリに入る前に靴底を洗淨する本学学生



原田 悦子 教授(人間系)

山口県生まれ。筑波大学第2学群人間学類卒。

同大学院博士課程心理学研究科を修了後、日本アイビーエム(株)東京基礎研究所にて3年間研究員生活を送る(認知工学グループ)。その後、法政大学社会学部(認知科学、情報教育担当)を経て、2010年より現職。教育学博士。

専門は、認知心理学、認知工学、認知科学。人を対象とする研究は、(実験室的な)精緻な研究とフィールドでの「生きている人を観る」研究の両方を「車の両輪として」行き来をしながら進めていくべき、と信じている。



られると、社会貢献の喜びにもなり、さらに活動が広がっていきます。

考えることを支援する社会

「使いやすい」は「考えなくても使える」ことではありません。モノの利便性だけにとられ、その結果生じている現象への注意を怠ると、いざというときに使えなかったり、思わぬ損失を被りかねません。

例えば、ネットでの検索機能やウェアラブル端末。もはや生活の必需品ですが、入力した単語から健康情報まで、膨大な個人情報がいづの間に他者に渡っていることには気が付きにくいものです。情報化が進み、道具やサービスを「使う」行為にさまざまな人や企業が関与するようになっていきます。そのような仕組みやリスクに対する理解も、現代社会における使いやすいには含まれます。

特に現時点での高齢者にとって厄介なのは、多くの道具に共通する「情報」という概念そのものの理解が難しいことです。自分たちの受けた教育や社会経験にはなかった概念を、人生の後期になつて新たに学ぶことは容易ではありません。しかし自分が使い慣れたものを使い続けようとしても、社会が変わり、そうもいきません。同じことは、これからの時代、世代にも(違う概念、技術によつて)必ず起こることです。

高齢者(あるいは一般のユーザ)にとつて、難しいから、リスクがあるから、新しいものを使うことを諦めるのではなく、自分とモノとの関係性を考え、適切な使い方を学習するにはどうしたらいいか、「みんなラボ」ではそうした問題にも取り組みます。考えるこ

とを支援する社会にしていけることが、本当の使いやすさを実現するのです。

「みんなが使えるラボ」へ

「みんなラボ」は昨年、国際ユニバーサルデザイン協議会(IAUD)が主催するIAUDアワード2014のソーシャルデザイン部門金賞を受賞しました。高齢者が単なる調査協力者ではなく、コミュニティをつくって積極的に研究者や企業と情報を共有し、互いに学びあつてきた3年間の活動が評価されたのです。このようなスタイルの高齢者研究は世界的にも例がありません。世代を超えたコミュニティの場でもあり、教育的な意味においても価値のあるラボです。

高齢者をターゲットにした研究開発は、医療や工学を始め、さまざまな分野で盛んですが、そこに携わる人の多くは若い世代です。ユーザとして的高齢者と直接関わったことが一度もないという研究者も少なくないといえます。実験室を出て実際に高齢者と接することで、本当に考えなければならぬことが見えてくるはず。「みんなラボ」は、そんな研究者や企業に向けても広く開かれています。

200名を超える会員は「みんなラボ」の財産。高齢者研究を推進する拠点として、彼らのパワーをみんなが生かすラボへの成長を目指しています。



聴

原田悦子 教授（人間系）

「使いやすさ」の正体を探る 高齢者の眼差しが生きる学びあいのコミュニティ

操作がしにくい、使い方が分からない―日常生活でそんな経験は珍しくありません。新しい道具やシステムが次々に登場する現代社会では、それらを使いこなすための学習と、誰もがより使いやすくするための工夫が求められています。そのヒントをくれるのが高齢者の視点。研究者・高齢者・企業が自由に参加できるコミュニティを形成し、開発者が気付かない使いにくさのポイントを見つけ、使いやすさを決める認知プロセスを探っています。

使いやすさとは何か

カップ麺の作り方やコピー機の実操作など、簡単そうでも実際にやってみると意外とつまずくことがあります。また、技術的に完成しているのになかなか普及しないものや、不便だと思いつつも我慢して使っているものもあります。これは色形のデザインや説明書、あるいは慣れだけの問題でしょうか。

道具を使うには目的があります。目的を達成するために適した方法を提供してくれる道具が「使いやすい」と認識されます。認知科学では、人が試行錯誤しながらモノの仕組みを「理解」して使い方を習得する、と考

えられてきました。しかし実際にユーザを観察してみると、むしろ直感的に問題解決をし、その中で自分なりの使い方を紡ぎ出しているようです。使いやすさの研究は、学習プロセスを説明することでもありますが、学習の結果は設計者が考えた「正しい使い方」とはまったく違うことも少なくありません。

また、年を取ると誰でも視覚や聴覚、身体機能が衰えます。今まで通りの日常生活を続けるにはより労力が必要、どうしても動作や判断も遅くなります。そのために周囲に迷惑をかけたか、恥ずかしい思いをするのも心理的な負担となるので、そういった場面を避けようと、しばしば独自のモノの

使い方を編み出しています。それは本来の設計にはなく、ユーザにとつても「使いにくい」ことになりがちです。若い開発者には想像がつかない使い方も起こるわけです。

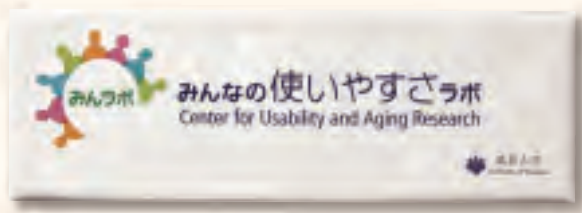
みんなの使いやすさラボ

高齢者が使いにくいと感じる部分は、多かれ少なかれ若い人でも同じように使いにくいものです。つまり、使いにくさについては高齢者の方がセンシティブ。「みんなの使いやすさラボ」（通称「みんなラボ」）は、高齢者による使いやすい検証実践センターとして、2011年10月に発足しました。「使いやすさ」をキー

ワードに、研究者・高齢者・企業の3者がともに活動し交流できる場です。

「みんなラボ」の発足に伴い、ボランティアで協力してくださる高齢者を募ったところ、これまでに約230名もの登録をいただきました。元商社マンや農家など属性もさまざま、とてもアクティブな皆さんです。使いやすさの検証実験に参加する他に、サイエンスカフェならぬ「みんなラボカフェ」や工場見学、独自の「研究」プロジェクトなど、ユニークな活動を展開しており、海外からの見学や問い合わせもあります。

これまでに、ペットボトルやレトルト包装の開けやすさ、電動歩行車やタブレットの使いやすさなど、さまざまなユーザビリティを検証してきました。開発者が考える利便性は、必ずしもユーザのニーズとは一致しません。双方のコミュニケーションが使いやすさを向上させます。自分たちの意見が改良に取り入れ



初の絵本『りんごかもしれない』がさまざまな絵本の賞を受賞。続く第2作、第3作も大ヒットしている今話題の絵本作家・イラストレーター、ヨシタケシンスケ氏にお話を伺いました。

ヨシタケシンスケさん

絵本作家・イラストレーター

1973年 神奈川県生まれ
1992年 筑波大学芸術専門学群入学
1998年 筑波大学大学院芸術研究科総合造形コース修了
1998年 共同アトリエ『studio BIG ART』参加
2003年 初のイラスト集『しかもフタが無い』（PARCO出版）発売
2013年 初の絵本作品『りんごかもしれない』発売
2015年 初のアニメーション作品『恋なんです』発売



『りんごかもしれない』（ブロンズ新社）

2013年4月発売以来、22万部を売り上げる。英語版、台湾語版、韓国語版も出版された。〈主な受賞〉第6回MOE絵本屋さん大賞第1位／第61回産経児童出版文化賞美術賞／2013年度オリオン絵本大賞

— まずは、本学芸術専門学群に進学した理由からお聞かせください。

小さい頃から物を作るのが好きで、漠然と、映画のセットを作るような人になれたらいいなと思っていました。宇宙服を作ったり、怪獣を作ったりしたかったんです。ただ、高校3年生の夏まで美術系の大学を受験する準備をしていませんでしたし、筑波大学の総合造形領域のことも全く知りませんでした。そんな僕に、総合造形の受験を勧めてくれたのは、所属していた美術部の顧問の先生です。

— 入学してどうでしたか？

全てが僕に向いていました。総合造形はとても自由で、好きなことをやらせてもらえ、好きなように作った作品を面白がってくれる友達に囲まれていました。「こういう物を作りたい時には、どういう材料で、どうい

順番で作る」という造形テクニックを身に付けて、「自分だけの力で、こういう大きな物が作れます。だからあなたの会社で雇ってください」と、映画の小道具などを制作している会社にプレゼンするための道具として、課題を作っていました。

— 学生時代に製作された「カブリモノシリーズ」をホームページ（ヨシタケシンスケページ <http://www.osoraku.com/>）で拝見しました。とても面白いです。大学を修了した後は、どうされたのですか？

僕は人を面白がらせるのが好きだから、自分が生かせると思って、ゲームセンターに設置するゲーム機を企画開発する会社に就職しました。でも、会社に入ってから分かったのです



▲カブリモノシリーズ「GYRO HEAD」（1995）
頭部が高速回転することにより発生するジャイロ効果（コマの原理）で身体が安定し、針の上にも立てる。はず。

が、人を面白がらせるといってもいろいろな種類があるんです。僕が好きな人の面白がらせ方は、人をにやーっとさせたり、うふっと笑わせたりすること。じんわりした笑いです。ところがゲーム機は、人を興奮させるもの。人を興奮させて、失敗させて、悔しいもう100円入れたい、っていう気持ちにさせなきゃいけないんです。人を楽しませるといっても、自分のやりたいことと根本が違うということが分かって、半年で辞めました。

— 思い切りがいいですね。

大学院修了と同時に同級生が立ち上げた『studio BIG ART』という共同アトリエに参加していたのですが、そこにけっこう広告美術の製作依頼がくるようになり、会社員と両立するのが厳しくなっていたということもあります。アトリエを設立した友人

も会社を辞め、2人でこの仕事に本腰を入れました。それからしばらくしてイラストの仕事をするようになってからは、昼間はアトリエで造形の仕事をし、夜、家に帰ってイラストの仕事をする、という日々を過ごしていました。

— 週刊文春で、土屋賢二氏の連載エッセイのイラストをずっと描いていらっしゃいますね。どうしてイラストの仕事をするようになったのですか？

半年間いた会社で、企画書を書いても書いてもボツになって。ストレスが溜まる中で、企画書を書くふりをしながら、落書きをするようになりました。僕は、ネガティブな物の考え方を癖にあって、放っておくとすぐ「もうだめだ」ってなる。でも、それでは社会人として成り立たないので、なんとかして世の中を面白がって、「楽しいこともあるよね」と思い込みたい。小さい面白いことを見つけてイラストにすることは、僕にとって、気持ちを平常に保つための作業でした。でも、仕事に落書きをしちゃいけませんよね。誰にも見られないように気を付けながら、ちーちゃく描いていたんですが、ある時油断して女性の先輩に見付かってしまったんです。そうしたら「かわいい」って褒められて。その言葉にすっかり嬉しくなって、自費出版でイラスト集を作りました。それが巡り巡ってPARCO出版の人の手に渡り、『しかもフタが無い』というイラスト集を出版することになったんです。そして、それを見た方からイラストの仕事が入るようになりました。



— 絵本を描くきっかけは？

『しかもフタが無い』を見たブロンズ新社の編集者が、僕に絵本を描かせたいと思って上司に掛け合ってくださいましたが、なかなか企画が通らなかった。でも、8年間言い続けていたら、「そこまで言うなら」とゴーサインが出たそうで、『りんごかもしれない』につながりました。

— 『りんごかもしれない』の斬新な発想は、どのように誕生したのですか？

僕はお題を与えられないと動き出せないみたいです。面白そうなキーワードを、どうすれば小さい子の皮膚感覚に訴えられるかみたいなことを考えながら組み立てていく作業が好きなんです。編集者が幾つか考えてくださった企画の中に、「りんごをいろいろな方法で見る」というのがありました。「りんごの産地に行く」というような教育的な感じでなかなか面白くなくて、いろいろ考えているうちに、「りんごに見えるけど、りんごじゃないとしたら何だろう」という視点を思い付いて。そうすると、急に何でもありになって、面白くなりました。まさか2冊目を描かせてもらえるとは思っていませんでした。『りんごかもしれない』を描く時には、「1冊だけやらせてもらえるとしたら、自分が小さい頃好きだった絵本の要素を全部入れたい。小さい頃に欲しかった本を作ろう」という気持ちで作りました。僕は、ストーリーというよりは、見開きで細かい情報がいっぱい入っているような絵本が好きだったんです。何回読んでも面白いような本。僕みたいな、前に出なさいと言われても前に出て行けないような子どもが、一人でこっそり読んでにやっとするよう

な本を作りたいと思いました。

— 4月には、初のアニメーション作品『恋なんです』が発売されました。今後やりたいと考えていることはありますか？

大人向けのイラストレーターはやりつつも、絵本を描いていきたいと考えています。『恋なんです』のように、新しい仕事にも、声が掛ければ積極的に挑戦していくつもりですけど、絵本には、特別な思い入れがあります。絵本には、世代を超えて読み継がれる可能性がある。そこを狙っていけるということは、すごいことだなんて思うのです。しかも、僕の好きな絵本には、小さい頃好きで読んでいて、大人になってもう1回読んだ時に、「子どもの時にはわからなかったけど、実はこんなテーマがあったのか」って、2回発見があります。人生で同じ物を2回楽しむことができるというのは、なかなかないことじゃないですか。そういう絵本の可能性に魅力を感じるし、自分もそんな絵本が作ればいいなと思っています。

— 最後に、学生にメッセージをお願いします。

僕は、学生時代に、自分がやっていて面白いことを見付けることができたので、その後の人生が楽でした。自分のコアになるものさえ見つければ、「自分はこれが好きだから、これさえできる環境さえ整っていれば、あとは犠牲にできる」みたいな、その先の自分の身の振り方の基準ができるんです。何が自分にとって面白いかは、探さないと見つからないし、自分にはないと思って探すのを諦めちゃうと、向こうからやってくるものではありません。たっぷり時間のある学生時代を、探すのに慣れる時間にしてもらえたらいいなと思います。



『ぼくのニセモノをつくるには』(ブロンズ新社)
2014年9月発売。キーワードは「Identity」。自分のことを考えたりしない年齢の子が、自分のことを考えるお話のため、「自分がやりたくないことを代わりにやらせるロボットに、自分のことを教える」という設定になっています。



『りゅうががあります』(PHP研究所)
2015年3月発売。キーワードは「うそとクセ」。いつもお母さんに怒られるクセに、正当な理由(?)をつけていくぼくの発想に脱帽です。



『恋なんです』(SMELエコース)
2015年4月発売。初回生産限定版のDVDのアニメーションを担当しています。NHKのみんなの歌で放送された読み聞かせユニット・ピクソンのデビュー曲です。



数理物質融合科学センター

Center for Integrated Research in Fundamental Science and Engineering



Introduce

世界をリードする優れた研究活動を行う大学を目指した筑波大学の研究力強化方針を受け、昨年9月に数理物質融合科学センターが新設されました。数理物質系としては学際物質科学研究センターに続く2つ目のセンターです。学外からも高い評価を得ている物理や材料科学・数学の研究分野を集約し、世界的な研究拠点へと発展させるとともに、そこから生まれる新しい学問領域への展開を目指しています。

金谷 和至 センター長



筑波大の強みを結集

数理物質融合科学センターには、宇宙史国際研究拠点と環境エネルギー材料研究拠点という2つの大きな柱があります。宇宙のなりたちを探る研究と電池や触媒などの材料開発、一見、あまり関係なさそうな2つの分野ですが、物質の極限的な性質を知り最大限に活用するという点で、相互に深く関連しています。

宇宙史国際研究拠点は、南極天文、素粒子構造、クォーク・核物質の3つの部門から成ります。これまで宇宙観測や素粒子研究として別々に行われてきた分野を、ビッグバンから現在の状態に到達するまでの宇宙史の中に位置づけ、ダークマターや暗黒銀河といった未知の宇宙を探り、物質の根源的な性質や生命誕生に至る物質創生のメカニズムを解明することが目的です。

環境エネルギー材料研究拠点には、

エネルギー変換・貯蔵物質部門と物質変換材料研究部門があります。太陽電池や燃料電池など、環境に負荷を与えず効率的にエネルギーを変換し蓄える技術に対する社会的なニーズが高まる中、それに応える革新的な材料や触媒の開発と、そのメカニズムを明らかにすることを目指しています。

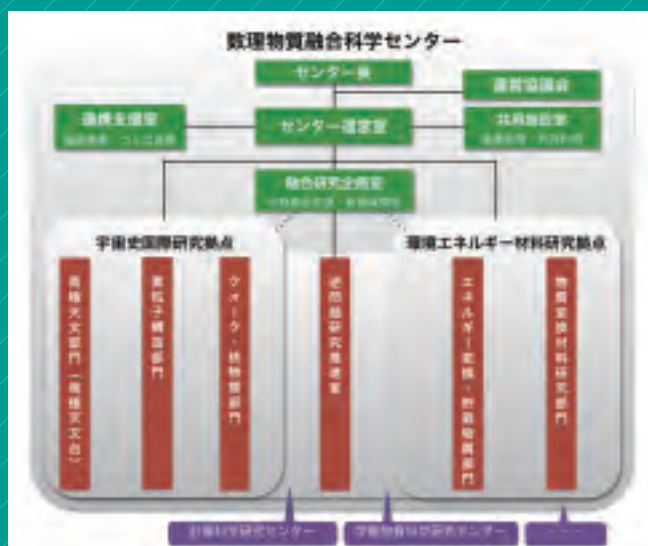
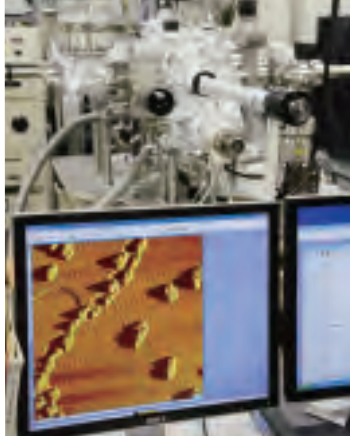
宇宙の情報と材料の情報

宇宙のなりたちを知ることは、すなわち、私たちの身の回りにあるさまざまな物質がどのようにして現在の姿になったのかを、138億年前のビッグバンにまで遡って見ていくことです。元素や原子核の構造・性質は、最初からそうだったのではなく、ビッグバン直後は、ヒッグス粒子やクォーク・グルオン・プラズマなど、現在とは全く違う物質の状態であったと考えられています。これが宇宙の膨張に伴い拡散し冷却していく過程で原子核や軽い

元素ができ、それらが集まって星となり、密度が高くなると爆発して、より重い元素を放出します。たくさんの星が生まれ消えてゆく、その結果として現在の宇宙や物質が形成され、生命が誕生していますが、そのプロセスはまだ謎に包まれています。

一方、エネルギー変換や貯蔵に資する材料は、工学的にはいろいろなものが研究されていますが、実はそのメカニズムについての理論的な解明はあまり進んでいません。求められる機能・性能を発現させるためには、材料を構成する物質のミクロな構造や性質を詳しく調べなくてはなりません。原子レベルで物質の状態を直接観察・計測し、その性質との関連を明らかにしていきます。

このようにして物質や材料に対する知見が蓄積されることで、それらの性質を極限まで引き出したり、制御することが可能になります。それは、電池などはもちろん、宇宙観測に用いる装置の性能にも



影響を及ぼします。センターで実施する2つの研究分野の情報が双方を循環し、相乗的に研究を促進させるのです。

物質の本質を探る基礎研究

このセンターが扱うのは、物質の本質に迫る極めて基礎的な研究です。すぐに社会に実装されるものではありませんが、基礎をしっかりと固めることで、その後の応用展開の幅広さに大きな差がつきます。センターではさらに、2つの拠点をつなぐ研究領域を探索する、融合研究企画室を設置しています。ここで有望だとみなされた研究テーマは、推進室を作ってプロジェクト化への検討を進めます。現在は、逆問題研究推進室が立ち上がっており、今後も適宜、推進室を増やしていく予定です。

逆問題とは、何らかの現象や結果がわかっているときに、そこに至るまでの法則を見つけ、最初の状態を理解する

数理モデルを構築する学問です。原因から結果を予測するのではなく、数学的な技術を使って、結果から原因を突き止めていきます。現在の物質から宇宙の起源を知る、材料の性質から物質の微細な構造を求める、そういった課題も逆問題に含まれます。大規模なデータ解析や計算アルゴリズムなど、両方の分野に共通するベースとなる手法を研究します。

新たな学問領域を開拓する

宇宙史研究も革新的材料開発も、国際協力やオールジャパンでの取り組みが不可欠でありながら、非常に競争の激しい先端分野です。目今の研究において優れた成果を上げるだけでは、本当の強みとは言えません。主導的な立場にとどまり続けるためには、周辺分野も含めた研究の潮流を俯瞰し、将来の核となりうる新しい研究分野を開拓・提

案することが不可欠です。

このセンターの設立には、関連のある研究分野を一つにまとめて組織化し、情報や知見を共有し、必要な連携を効率よく進めようという意図があります。金谷センター長は、「センターの英語名称では、『融合』に相当する単語として『integrated』を選びました。センターが一体となって、研究者間のコミュニケーションを活性化し、視野を広げることを目指しています」と、センターに込めた思いを語ります。

動き始めたばかりの新しいセンターですが、すでに分野を横断した情報交換のための連携サロンやワークショップを開催しています。これらの機会を通じて、研究者の意識改革を図り、新しい学問領域を創出する場としても機能していくことが期待されます。

附属学校の

名物先生登場!

18

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。



この日の授業は小学3年生の自立活動。6人の子どもと複数の先生が輪になって座り、音楽に合わせて歌いながら体を動かすリミックが始まる。楽しいウォーミングアップだが、実はこれも自分の体を知るための大切な学習のひとつだ。それから大きなジョイントカーペットを使ったゲームに移る。算数の狙いも加味した図形作りだ。

くじ引きで3人ずつ2つのチームに分かれて、それぞれ4枚のジョイントカーペットを並べて正方形を作る。次は9枚で。チームで相談しながら、あるいは作戦をたてながら、順調にゲームは進む。ところが12枚で長方形を作り始めると、2つのチームに違いが現れた。片方は縦3枚に横4枚の長方形、もう片方は縦2枚に横6枚の長方形ができあがった。



そこで坂本先生の登場。どちらも正しいことを確かめながら、2つの長方形の違いを考える。それぞれどんな相談をしてその形になったかを振り返っていくと、算数で習った掛け算とつながっていることに気付いた。そして最後は全員で20枚のジョイントカーペットで長方形を作る課題。できあがったのは縦2枚に横10枚の長方形だ。みんなであらためて掛け算の考え方を復習した。

6人の子どもは障害のタイプも程度も異なる。しかしグループで作業を進めるうちに、役割分担や、全員の参加を促すような互いの配慮が自然とできていく。通常の自立活動は一人一人の目標に

今回の先生

Profile

さか もと しげる
坂本 茂 教諭

筑波大学附属桐が丘特別支援学校



1950年 埼玉県生まれ
1970年 東京教育大学入学
1974年 東京教育大学卒業
1974年 東京教育大学附属桐が丘養護学校(現筑波大学附属桐が丘特別支援学校)に奉職

今年度で同校の勤務が42年目となる。この間、学部主事、50周年記念行事実行委員長、自立活動実践セミナー実行委員長、筑波大学講師等を歴任。

2000年11月には、約4週間にわたって、文科省より「平成12年度国立大学・学部附属学校等教官海外派遣団」の一員として派遣され、中国・ベトナム・イギリス・アメリカの4カ国の教育諸事情について視察した。

桐が丘には中・高等部の数学の先生として赴任したが、間もなく小学部の肢体不自由児教育に興味を持った。それともかなり重度の障害を持つ子どもたち。知的にはそれほど問題がなくても、体の動きが制限されると、教科書どころか簡単な道具を使うことも難しい。そういった指導の手がかりになるものがない子どもたちにどう接したらよいか、それは坂本先生のライフワークとなった。



沿ってマンツーマンで指導するが、にぎやかな雰囲気の中で人と関わる方が、高い学習効果が期待できることもある。そのため低学年のうちは、集団活動も取り入れている。一緒に授業を組み立てる先生たちとの、事前のコミュニケーションも入念だ。

特別支援教育ではさまざまな教材が用いられるが、障害の重い子どもの指導で鍵となるのは、むしろ体を通した指導。特別な道具を使うのではなく、先生の体そのものが教材だ。一見遊びのようにも見える体の動かし方によって、感覚に訴えかけ、それぞれの能力を引き出す。しかし具体的にどんなふうに指導したらよいのか、現場の先生は暗中模索しているのが現状でもある。坂本先生は、自身も悩む中で、仲間の先生たちと研究グループを作って議論と試行錯誤を重ねた。長年にわたるその活動の成果をまとめたものが2冊の本となっている。とりわけ1993年

に出版された最初の本は、今も多くの人に利用されるロングセラーだ。それだけ、肢体不自由児の指導方法を体系化し、共有するのは難しいということでもある。

校内の研究グループは他にもいくつかあり、それぞれ関心のあるテーマに沿って意欲的に活動している。このような活動の成果は、毎年開催するセミナーでも公表しており、全国の特別支援学校から参加者がやってくる。障害の重い子どもに対する指導では、指導方法・理論に関する手引きがあまりなく、異動や引退により個人の知見も伝承されにくいいため、先生たちには貴重な機会なのだ。他校を先導し、スタンダードを作っていくという桐が丘の役割は大きい。

桐が丘で過ごした42年間の教師生活も残りわずか。学校を離れるのはつらいが、同じ現場でひとつのことに取り組んできた充実感は何にも代えがたい。数学、自立活動、総合学習など、小学部から高等部まで全校の子どもと関わり、成長の過程を見守り続けてきた。中には接し方に戸惑い苦労する子どももいたが、それもすべて指導方法に生かされている。また、海外の特別支援学校を見

学する研修に参加し、国情や文化によって異なるさまざまな教育方法からも多くを学んだ。坂本先生は今、年月をかけて培ってきたかけがえない経験やノウハウを整理し、後進に引き継ぐことに力を注ぐ。

同時に、自らが影響を受けた先人にも思いを馳せる。日本における肢体不自由児療育の創始者と言われる整形外科医の高木憲次。教育と治療と福祉を総合的に実現しようとした高木の理念は、坂本先生にとっては原点となる教えだ。校舎に隣接する心身障害児総合医療養育センターはその理念に基づいて設立されたもので、高木の言葉が刻まれた石碑がある。折に触れてそこを訪れ、特別支援教育の意義を見つめなおす。

障害を持つ子どもに対しては、数年程度の長い期間を見据えて、一連の指導目標や学習内容を設定することが必要だ。少しずつでも能力を伸ばしていくために、期間を通じて成長のレベルを見極めながら、それに応じた指導方法の目安を提示する。ただし、若い世代に自分のやり方をそのまま教えようとはしない。同じ子ども、同じ障害はないのだから、子どもに初めて接するときは、ベテランも新米もスタートラインは一緒だ。ともに活動し、研究しながら伝えていく。その自然体の姿はとても優しい。



西垣昌欣 副校長

坂本先生は、当校勤務が42年目(歴代最長)となる大ベテランです。本校、施設併設学級(医療型障害児入所施設から通学する児童生徒対象)の両校舎で勤務された経歴に加え、小中高いずれの学部でも担任を経験され、我が校のレジェンドと呼べる存在です。着任されて以来、一貫して知覚-運動学習理論等を基に、児童生徒が個々に抱える困難を改善・克服できるよう指導に励んで

来られました。いつも穏やかで、そして誰に対しても丁寧に関わり、公平に接しておられる大先輩は、児童生徒や同僚から「ほとけの坂本」と慕われています。

我が校には、代々の先輩方から「目の前にいる子どもたちのために尽くすこと」と、「自ら研鑽に励むこと」を大切にする気風が引き継がれてきています。坂本先生はその気風を体現し、静かに私たち後輩も育ててくださっています。

躍動する! 筑波大生

【柔道部】永瀬貴規 選手

世界選手権で金メダルを狙う

国際柔道大会グランドスラム・東京男子81kg級で2連覇を果たした永瀬貴規選手(体育専門学群4年)。4月に行われた柔道全日本選抜体重別選手権を順当に制し、2年連続で世界選手権(8.24~30)に出場する。

男子81kg級は、世界的に競技人口が多く、日本柔道が長年苦戦を強いられてきた階級だ。「世界で勝つのが厳しい階級だからこそ、結果が残せば最高だと思う」という永瀬選手は、2013年グランドスラム・東京大会で、5試合オール一本勝ちで初優勝という鮮烈デビューを飾り、81kg級の光明として、一身に期待を背負う存在となった。

しかしながら、昨年の世界選手権はグランドスラム・東京で勝ったジョージアのチリキシビリに敗れて5位。「相手のペースのまま何もできずに終わってしまった」と振り返り、「去年学んだことを生かし、今年は気持ちを前面に出して金メダルを取る。それがオリンピックにもつながるから」と意気込む。

最大の目標は、世界選手権の先にあるリオデジャネイロ・オリンピックでの金メダル。「同じ

階級でも、ムキッとしている外国人選手に比べて、自分は体の線が細い。体の力をつけて、柔道の幅を広げる」。あと1年ほど先にある五輪に向けてどう自分を仕上げるか。そのビジョンは自分の中にしっかりとできあがっているという。その頼もしさに、「強くなるのもならないのも自分次第」という本学柔道部で培った自律の精神を感じた。

そんな永瀬選手の理想とする柔道は、「子どもたちから『あいう柔道がしたい』と思われるような柔道」。リオ五輪そして東京五輪。日本の期待を背負う日々はまだまだ続くが、いずれは柔道の指導者になりたいと考えている。



写真:アフロスポーツ



【女子バレーボール部】井上愛里沙 選手

パンチ力のあるアタックで日本のエースに!

春季関東大学リーグ戦で、6年ぶりの頂点に輝いた本学女子バレーボール部。その大きな原動力となったのは、全日本代表メンバーで

もあるエース、井上愛里沙選手(体育専門学群2年)。2020年東京五輪に向けた10人の強化指定選手にも選ばれた日本期待のアタッカーだ。



公立の進学校で理学療法士を目指していたが、高校3年生の時に、高校生でただ一人、全日本ジュニア代表に大抜擢される。「進路を決める時期で、試合に出してもらえとも思わなかったから、世界ジュニア女子選手権大会に行くかどうかずいぶん悩んだ」という。しかし、この大会で、世界を相手に強烈なスパイクを叩き込みまくり、中心選手として大活躍。日本チームは28年ぶりに準優勝し、自身も「もっと上を目指してみたくなった」と、本学体育専門学群に入学してバレーボールと向き合う人生を選んだ。

関東大学リーグ戦の合間には、フィリピンで行われたアジアU-23女子選手権大会にも出場。試合に備える強化合宿があったため、木曜日までは全日本の練習に参加して、金曜日に大学で練習、土日にリーグ戦に出場する、というハードな日々だった。全日本の試合と重な

ると、大学の試合に出られないこともある。しかし、「今一番の目標はインカレで優勝すること」。「筑波大学でしっかり基礎を作り、インカレ優勝という結果を残して、自信を持って全日本で活躍できるようにしたい」と語る。

「緊張したことはない」と断言する強心臓が身上で、大舞台になるほど力が出るタイプ。「よく『動じないね』とか『態度がでかい』とか言われます」(笑)。笑顔がとても素敵な、頼もしいエースのこれからが楽しみだ。



佐藤綱祐さん 高鳥光さん 西田惇さん

IVRC2014総合優勝

佐藤綱祐さん、高鳥光さん、西田惇さん（グローバル教育院エンパワメント情報学プログラム一貫制博士2年）は、チームチャンピオン※として国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト（IVRC2014）に参加、見事総合優勝に輝いた。

IVRC2014は、インタラクティブ作品の企画・制作・展示を行い、技術や芸術性を競うコンテスト。同チームの作品「CHILDHOOD」は、視点を低い位置に変換する視線変換装置と、手指の把持動作を縮小する受動型手指外骨格を装着する身体性変換デバイスで、大人の身体を子どもの体に戻し、子どもでしか感じ取れない世界や感覚を本質的に再現する。

視点の位置を下げるだけでなく、両目の間隔を子どものサイズにするなどして子どもの視界を再現しており、装着すると視界がガラリと変化。そびえ立つテーブルに恐怖を感じ、ペットボトルは太くてつかめない…子どもを実感し、さまざまな発見をすると同時に、

非日常の感覚にドキドキ、ワクワクする。

4月には、フランス・ラバルで開催された国際VR展示会Laval Virtualに出展。フランスの全国区のテレビや新聞に取り上げられ、展示ブースは大評判に。5日間の開催期間におよそ2000人が訪れたという。

楽しいだけでは終わらない。附属病院で、医師らがこのデバイスを装着してけやき棟の中を歩く実験を行った。「子どもの視点から見ると、カウンターが高くそびえ、その上にPCもあって、看護師の顔が全く見えない」など、たくさんの気づきがあったという。今後は、製品開発や病院・店舗設計、教育関係など、さまざまな分野での社会実装が期待される。

「研究室のプロジェクトとは違い、『楽しめるものを』とスタートしたが、考えていた以上に応用でき、社会の役に立ちそう」と西田さん。3人にはそれぞれ専門の研究があり、平行して「CHILDHOOD」の開発を進めるために、5月から10月にかけて休日返上で取り組んだ。しかし、息抜きも「気がつけば何かしらのデバイスやPCで遊んでいる」という3人のこと。時には白熱した議論を繰り広げながら開発に熱中した日々を、「かなり大変だった」と振り返りな



左から佐藤綱祐さん、西田惇さん、高鳥光さん

がらも、「無意識的なところで楽しんでいたと思う」（佐藤さん）と笑った。

※ チーム シャンピオン「CHILDHOOD」 主な受賞と展示会出展

国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト（IVRC2014）総合優勝
Laval Virtual賞
クリスティ・デジタル・テクノロジー賞
未来観客賞2位
Laval Virtual Award Learning,
Science and Humanities部門賞
Microsoft Imagine Cup 2015
ワールドシナシスシップ部門最優秀賞

2015年1月 つくばテクノロジーショーケース出展
4月 Laval Virtual 2015
6月 3D&バーチャルリアリティ展（IVR）出展
8月 SIGGRAPH 2015出展
10月 Slovenia Speculum Artium 2015



競技成績・各種発表・コンテスト結果

■ 男子バスケットボール部

第64回関東バスケットボール選手権大会 準優勝

第55回関東大学バスケットボール新人戦 優勝（2連覇）

【優秀選手賞】馬場雄大（体専1年）、杉浦佑成（体専2年）【新人王】波多智也（体専1年）

■ バドミントン部

関東大学バドミントン春季リーグ戦 女子団体 優勝

【最優秀選手賞】加藤美幸（体専2年）

■ 陸上競技部

第94回関東学生陸上競技対抗選手権大会 女子 総合優勝（23年連続25回目）

■ 水泳部

第91回日本選手権水泳競技大会

【男子100m背泳ぎ】2位、【200m背泳ぎ】2位 金子雅紀（院2年）※世界選手権出場決定

■ 硬式庭球部

有明国際女子テニストーナメント

【女子シングルス】優勝 牛島里咲（体専1年）

■ 漕艇部

第37回全日本軽量級選手権大会

【女子ダブルスカル】優勝 木村光里（体専3年）、小原有賀（体専2年）

■ オリエンテーリング部

2015年オリエンテーリングジュニア世界選手権大会日本代表選考会

1位 山岸夏希（体専1年）、5位 鈴木直美（地球2年）

※両者ジュニア世界選手権大会日本代表に決定

■ 個人

第3回タートル語・タートル文学オリンピック

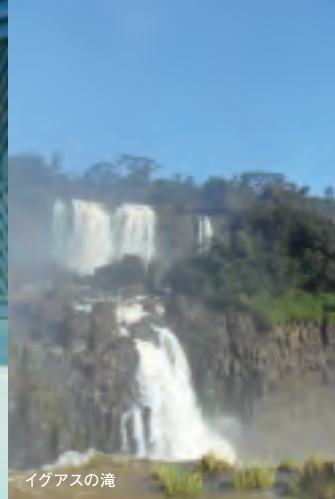
入賞 中村瑞希（人社4年）



カイピリーニャ



パラチの歴史的な街並み



イグアスの滝

みで、コパカバーナは年越しの時に海で打ち上げられる花火でも有名です。

悔しいというのは、私たちサンパウロの人にとって、リオデジャネイロの人はライバルだから。日本の東京と大阪の関係に似ていると思います。言葉（ポルトガル語）は同じですが、発音が少し違うので、サンパウロにいた頃は、友達と「あの発音、聞いてられない！」などとよく話していました（笑）。

仕事やオリンピックよりカーニバル！

リオデジャネイロといえば、カーニバルで有名ですが、サンパウロのカーニバルも同じぐらい盛大に行われます。今年は2月14、15日にサンパウロ、16、17日にリオでカーニバルが行われました。両方見るといいですよ。

こうしたカーニバルのパレードには、1日に、6〜7つのチームが登場します。チームごとにテーマがあつて、今年のサンパウロのカーニバルには、「日本」がテーマのチームもありました。

ブラジル人は基本的にとてもものんびりしていて、リオデジャネイロオリンピックはもう来年に迫っているというのに、あまり準備が進んでいません。でも「なんとかなる」と思っています。サッカーワールドカップもぎりぎりなんとかになりました（笑）。そんなブラジル人ですが、カーニバルとなると人が変わります。カーニバルが終わるとすぐ、次のカーニバルの準備に真剣に取り掛かります。

女性たちは「いつかカーニバルで踊りたい」と憧れています。パレードで踊るには、チームに入つて、その中から選ばなければならないません。踊りが上手か、とてもきれいか。女性たちは、カーニバルに備えて、11月くらいからジムに

通い始め、ダイエットをしたりして、仕事よりずっと真剣に取り組みますが、選ばれるのは簡単なことではありません。

大人気「手巻き屋さん」

ブラジルは日本の面積の22・5倍。とても広いため、地域によって料理もさまざまですが、サンパウロでは、各地方の名物料理を食べることが出来ます。ミナス出身の友達は「ミナスのボンデケージョの方が全然おいしい！」などと言っていたので、その地方の人からすると少し違うのかもしれませんが。でも、サンパウロのもとてもおいしいです。

日本食の店もたくさんあり、今話題になっているのは「手巻き屋さん」。三角の手巻き寿司が並んでいます。人気メニューは、サーモン、マンゴー、カニかまぼこ、きゅうりが入った「カリフォルニア」です。

それから、どの日本食店にも必ずあるメニューが「ホットすし」。これは、サーモンとクリームチーズが入った細巻き寿司を天ぷらのように衣をつけて揚げたもの。テリヤキソースをかけて食べます。

ブラジルはフルーツが豊富な国なので、サンパウロの街のあちこちにジュースの店があり、人々はよくジュースを飲みます。オレンジ、パッションフルーツ、マンゴー、パイナップル、アサイー、クプアスなど、種類もたくさんあり、どれもおいしいです。

代表的なお酒は「カイピリーニャ」。サトウキビを原料とした蒸留酒「ピンガ」に、砂糖、レモン、クラッシュアイスを加えたカクテルです。ブラジルのビーチに行ったら、ぜひビーチと一緒に「カイピリーニャ」を楽しんでください。



サンパウロのカーニバル



Homeland

本学には、100を超える国から、約3千人の留学生が訪れています。
このコーナーでは、本学の留学生から、出身国の自慢の場所や風景、食べ物など、多岐にわたって紹介していただきます。



ブラジル
連邦共和国



ハイッサ ヌネス

Raissa Nunes さん

所属: 人文学類 日本語学科 研究生
趣味: 読書・カラオケ



私は、サンパウロで育ち、サンパウロ大学で4年間日本語の勉強をしました。サンパウロ大学は、広々としていて留学生も多く、筑波大学と似た雰囲気です。日本人留学生もたくさんいますよ。全く違うのは、キャンパス内をバスで移動すること。サンパウロ市街はとても混雑していて危険なので、サンパウロの人はあまり自転車に乗りません。

サンパウロは、ブラジルの経済の中心地。世界中からたくさんの方が集まっています。人が多く、地下鉄や電車はいつもギョウギウ。ブラジル人はたいてい馴れ馴れしいほど友好的ですけれど、サンパウロの人たちはみんな忙しくて、優しくする暇がないという感じです。季節は夏か冬で、夏は乾燥していて暑く、38度くらい。冬は本当に寒い日で15度くらいです。

一生に一度は行くべき！
イグアスの滝

ブラジルは、自然がとても豊かで美しい国。中でも、イグアスの滝は絶対にお勧めです。一生に一度は行かないと！世界三大名瀑の中でも、川幅、水量共に世界一。大迫力の美しい滝です。サンパウロから飛行機で1時間40分くらいです。

イグアスの滝のそばには、バードパークもあり、ブラジルの国鳥トウッカーノやアララ(コンゴウインコ)など、約150種類もの鳥を見たり、触ったりすることができます。

海もきれいですよ。サンパウロ州で人気があるのはウバトウバのビーチです。リオデジャネイロのパラチやコパカバーナのビーチなども悔しいけど(笑)、人気があります。パラチは、毎年開催される国際文学祭や歴史的な街並



アマゾン川(マナウス)



トウッカーノ

バードパークのアララ



大聖堂近くの信号機



サンパウロの象徴、セー広場の大聖堂

地域貢献



(写真1)

筑波大学科学技術週間 キッズ・ユニバーシティ

もうすっかり4月の恒例行事となった「キッズ・ユニバーシティ」。本学では、毎年、科学技術週間(4月18日の発明の日を含む月曜日から日曜日までの1週間)の土曜日にさまざまなイベントを開催しています。この名称にして今年で4回を数えました。

キッズ・ユニバーシティの特徴は、総合大学の特徴を生かした専門性と幅の広さです。その目玉が教員による特別授業。今

年は、体育系准教授の麻見(おみ)直美さんによる「夢の実現にむかって、『何を、いつ、どう食べる?』」と生命環境系准教授の上松(あげまつ)佐知子さんによる「小さな化石の大きな話」の2つを実施しました。

麻見さんの授業では、丈夫な骨を作るために食事で心掛けるべきことを中心に学びました。質問コーナーでは、「ラーメンが大好きなんです、毎日食べてもいいですか」という質問まで出ました。

上松さんの授業(写真1)は、コバントという謎の小さな魚から生命の歴史を読み取

るという壮大な話でした。教室には化石に詳しいお子さんもいて、講師もたじたとする質問が飛び出しました。

今回は初の試みとして、「キッズ・ユニバーシティ」付属大人・ユニバーシティ」と銘打った企画も実施しました。体育系教授の田中喜代次さんの研究室が実施している「スマートエクササイズ」です(写真2)。インストラクターの大月直美さんの指導で、親子一緒に楽しく体を動かしました。

大人向けの別の企画として、「よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展ギャラリートーク」も実施しました。芸術系の教員が復元した孔子像の展示会に合わせた企画です。東京から駆け付けた熱心な方もいて、科学

技術と文化の融合を楽しみました。

恒例のスタンプラリーは今年も大盛り上がりで、200名余りの方が記念品を手に入れました。

来年は5月21日(土)を予定しています。



(写真2)



ドライビングシミュレータでの体験

筑波大学みどり散歩

毎年5月18日は、植物の大切さや植物科学の面白さをより多くの人々とともに見直して共有するための「国際植物の日」に指定されています。本学では、「筑波大学みどり散歩」と銘打った記念イベントを、2013年から、国立科学博物館筑波実験植物園などとのジョイントで開催しています。今年は5月17日(日)を中心に実施しました。

一番の人気企画は、構内の植物と環境を観察するガイドツアーです(写真3)。生命環境系教授の上條隆志さんと研究室の学生がガイドを務めます。緑豊かな筑波大学ならではの企画です。午前と午後の2回、1時間強の散歩を楽しみました。

今年の目玉は南方熊楠賞受賞記念講演会。本年3月に生命環境系を定年退官された井上勲名誉教授が5月に同賞を受賞したのを記念し、満を持して開催しまし

た。講演テーマは「藻類という視点～地球と生物進化を理解するための～」。

生物進化の歴史は、地球環境の変遷と一心同体で進んできました。その中であって大きな存在感を示してきたのが藻類。その役割と栄枯盛衰をダイ

ナミックな視点で説いた講演でした。

新しい育種技術を紹介する「明日の植物を考えよう」というトークイベントも開催されました。作物品種改良1万年の歴史を15分(!)で振り返った後、本学の植物科学の研究者4名が、育種にかけるそれぞれの夢を語りました。

そのほか、「City Chat Cafe 英語で植物を語ろう」コーナーや、土壌標本(モノリス)作りコーナー、「五感で愉しむチョコレート」コーナー(写真4)、本学農林技術センター直販コーナー(写真5)など、たくさんの企画で盛り上がりました。



(写真4)



(写真5)



(写真3)

筑波大学公開講座 ～日本画教室～

本学は、体育や芸術を含む幅広い分野を持つ総合大学ならではの、さまざまな公開講座を実施しています。その1つ、日本画教室は、20年以上続く人気の講座。本年度も募集人数を超える応募があり、受講者25人を抽選で決定しました。指導は本学芸術専門学群美術専攻日本画コースの教員4人（藤田志朗教授、太田圭教授、程塚敏明准教授、山本浩之准教授）が年ごとにローテーションで担当しており、本年度は程塚准教授。5月20日から7月22日まで毎週水曜日の17時30分～20時30分、計10日間行われる予定です。

講座は、本学の日本画コースの1年生が学ぶのとはほぼ同じ内容で構成されています。「本学でどのような日本画を指導しているかを知ってもらったり、日本画の奥深さを感じてもらったりするという狙いから、あえて本格的な日本画を指導している」とのこと。モチーフには、毎年「テッポウユリ」を使います。日本画の基本となる胡粉（白色～貝殻を粉にして作る絵の具）や、岩絵の具（緑青）を必ず使うテッ

ポウユリは、基本的な絵の具の使い方を説明するのにとても適しているからです。

ホワイトボードの前で講義する時間はとても少なく、程塚准教授と実技指導員の院生2人が、一人ずつ丁寧に指導して回っています。程塚准教授のモットーは「必ず仕上げさせる」。絵は完結して、最後に良さが出るもの。レベルに合わせてアドバイスしたり、時にはちょっと手を入れたりしながら必ず仕上げさせ、自分の中で達成感を持ってもらえるようにしています。

今までに開催された日本画公開講座では、講座が終了した後も習い続けたいという受講生がとても多く、近隣の市公民館などを借りて活動する日本画のサークルが次々に誕生してきました。こうしたサークルの活動は、藤田教授が指導の中心となり、大学院の修了生もサポートしています。終わった後も続ける場があり、生涯教育につながるということもこの講座の特長といえるでしょう。

「継続しなくても、10回の講座で日本画をより身近に感じてもらえれば嬉しい。

実際に日本画の画材を使って描く経験をすると、日本画の作品を見る目も違ってきます。花も今までとは違った見方をするようになったりします。これは、心が少し豊かになったということです。こうしたことが芸術の持つ役割の一つなのです。大変なこともあります、とてもいい取り組みだと思っています」と、学外実習中の野沢温泉村から駆け付け、3時間にわたる指導を終えた程塚准教授がにこやかに語ってくれました。



※筑波大学公開講座とは、大学の専門的、総合的な教育・研究機能を開放・発信することにより、市民の教養・文化の向上および職業または実際の生活に必要な能力の発展を促すものです。2015年度は教養講座25講座、スポーツ講座6講座、芸術教室3講座、現職教育講座30講座を開講しています。詳細は本学HP「公開講座:申込・問い合わせ先」をご参照ください。

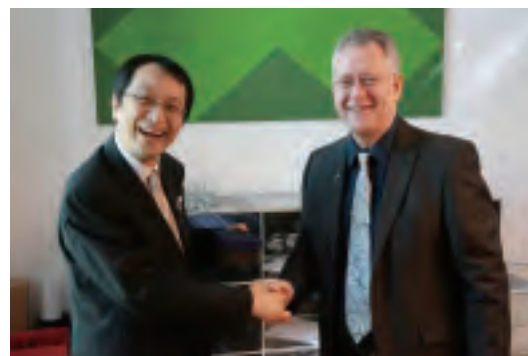
<https://www.tsukuba.ac.jp/education/extension/>

永田恭介学長がハンブルク国際学長会議に出席

6月10日～12日、ドイツ連邦共和国ハンブルク市において開催されたハンブルク国際学長会議に永田恭介学長が出席しました。これはドイツ学長会議、ハンブルク大学、ケルバー財団の共催により“Which values can we share in a future world university system?”をテーマに開催されたもので、日本から参加した永田学長と京都大学の山極壽一総長を含

め、世界各国から約50名の学長・副学長が参加。同会議は、3日間の議論に基づいて、世界の大学の将来像に関する「ハンブルク協定」を採択しました。

永田学長はまた、本学協定校であるボン大学を訪問し、ミヒャエル・ホーホ学長と医学分野での共同研究や日独韓共同大学院（TEACHプログラム）等の成果を確認するとともに2016年の全学協定



ボン大学のホーホ学長との懇談



ハンブルク国際学長会議 集合写真

延長後のさらなる共同研究の可能性について協議しました。

本学は現在、ドイツにボン大学、ベルリン自由大学、ケルン大学など16の協定校を有しています。永田学長の今回のドイツ訪問により、本学とドイツの大学との交流が一層促進されることや、本学ボンオフィスが日独・日欧間の学術ネットワークにおいてさらなる役割を果たすことが期待されます。

剣道世界選手権で竹ノ内佑也選手が大活躍!

昨年の全日本剣道選手権大会で43年ぶりの学生優勝を果たした竹ノ内佑也選手(体育専門学群4年)が、3年に1度開催される世界選手権に出場しました。

学生として始めて代表に選出された竹ノ内選手。個人戦決勝では網代忠勝選手(兵庫県警)に延長戦の末に惜しくも敗れ、準優勝となりましたが、団体戦の決勝トーナメントでは全て先鋒として出場して全戦全勝。決勝戦では得意のメンで見事勝利し、強敵韓国を2-1で破っての優勝に大きく貢献しました。



6月18日、成績報告のために表敬訪問



写真:望月仁/アフロ



写真:望月仁/アフロ

よみがえる湯島聖堂本尊孔子像 彩色復元特別展を開催

本学附属図書館から、2000年に江戸前期の美術品が多数発見されました。その後の研究により、これらは本学の起源ともいえる湯島聖堂に飾られていたものであり、日本における儒教美術に関する一級品の文化財であることが判明しました。以後、本学は、日本における儒教美術およびそれらの復元に関する研究に注力しています。



この度、湯島聖堂大成殿孔子像の彩色復元が完成し、オリジナルの鮮やかな造形がよみがえりました。彫塑を専門とする柴田良貴教授(芸術系)が像の原型を復元し、日本画を専門とする程塚敏明准教授(芸術系)がその乾漆像に彩色したものです。



孔子像の彩色復元像

完成を記念して、この彩色復元像を中心に、本学が所蔵する湯島聖堂・昌平坂学問所伝来の美術資料ならびに復元研究の成果を、4月3日～19日に、附属図書館および大学会館アトスペースにて一般公開しました。

タイ王国のシリントーン王女殿下が「次世代がん治療」の開発実用化への取り組みを視察

4月23日に、タイ王国マハー・チャクリー・シリントーン王女殿下が、つくば国際戦略総合特区の先導的プロジェクトの1

つである次世代がん治療(BNCT)の研究拠点「いばらき中性子医療研究センター」を視察されました。

今回の視察をきっかけにタイ王国でも日本が先導するBNCT研究に対する理解が深まることが期待されます。



J-PARC研究棟でシリントーン王女を囲んで記念撮影(前列中央)

シリントーン王女は、はじめにJ-PARC研究棟の大会議室にて、松村明附属病院院長および熊田博明中性子医学研究開発室長からホウ素中性子補足療法(BNCT)の仕組みや特徴等について説明を受けた後、BNCTの研究拠点である「いばらき中性子医療研究センター」の研究開発現場を視察されました。



BNCT照射室を視察される様子。前列左から松村明附属病院院長、シリントーン王女殿下、吉岡正和高エネルギー加速器研究機構名誉教授

エンパワースタジオ竣工お披露目会を開催

5月12日に、エンパワーメント情報学プログラム(EMP)の拠点となるエンパワースタジオが竣工し、関係者および学内向けにお披露目会が行われ、約90名が出席しました。

お披露目会は、永田恭介学長および大田友一EMPプログラム責任者の挨拶から始まり、テープカットが行われた後、岩

田洋夫プログラマーの案内のもと、スタジオ内の見学や展示機器の1つである「トラストレッドミル」のデモンストレーション・体験などが行われました。



竣工したエンパワースタジオの前で挨拶する永田恭介学長



「トラストレッドミル」のデモンストレーション

受賞 Awards and Prizes

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
第27回日本トレーニング科学会大会 実行委員会特別賞	図子浩二教授(体育系)	_____
日本陸上競技学会 学会賞	苅山靖特任助教(体育系)	_____
日米先端工学シンポジウム Best Speaker Award	寺澤洋子助教(図書館情報メディア系)	_____
2014年度日本データベース学会若手功績賞	森嶋厚行教授(図書館情報メディア系)	_____
第17回秩父宮記念スポーツ医・科学賞奨励賞	真田久体育専門学群長(体育系) 清水諭教授(体育系) 菊幸一教授(体育系) 山口香准教授(体育系)	_____
公益社団法人日本セラミックス協会 「男女共同参画に関する川柳」銅賞	鈴木義和准教授(数理物質系)	_____
平成二十六年年度笹川科学研究奨励賞	市川寛也助教(芸術系)	_____
平成27年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 科学技術賞 研究部門	重川秀実教授(数理物質系)	_____
平成27年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 科学技術賞	山海嘉之教授(システム情報系／サイバニクス研究センター長)	_____
平成27年度科学技術分野 文部科学大臣表彰 若手科学者賞	北将樹准教授(数理物質系)	_____
平成27年度日本リウマチ学会賞	土屋尚之教授(医学医療系)	_____
日本菌学会賞	山岡裕一教授(生命環境系)	_____
日本高圧力技術協会 貢献賞	渡部修教授(システム情報系)	_____
日本都市計画学会総会 2014年年間優秀論文賞	谷口守教授(システム情報系) 森英高 (システム情報工学研究科 社会工学専攻 博士後期1年) 肥後洋平 (システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期2年)	谷口守教授(システム情報系)
電気学会 電気学術振興賞進歩賞	只野博教授(数理物質系)	_____
ICRR2015 Excellent Poster Award	鈴木健之助教(医学医療系) 善光純子非常勤研究員(医学医療系)	_____
第8回「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」	坂田(柳元)麻実子准教授(医学医療系)	_____
第4回CSJ化学フェスタ2014 優秀ポスター発表賞	鶴岡望(数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期1年)	辻村清也准教授(数理物質系)
第4回CSJ化学フェスタ2014 ポスター賞	林宏紀(数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期1年)	後藤博正准教授(数理物質系)
本機械学会関東支部 第54回学生会員卒業研究発表講演会 Best Presentation Award	丹羽基能(理工学群 工学システム学類4年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子准教授(システム情報系) 金川哲也助教(システム情報系)
本原子力学会熱流動部会 優秀講演賞	齋藤慎平 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期1年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子准教授(システム情報系) 金川哲也助教(システム情報系)
日本化学会 第95春季年会 学生講演賞	米田耕三(数理物質科学研究科 化学専攻 博士後期3年)	木越英夫教授(数理物質系)
Best Poster Award of the 5th Asia-Africa Sustainable Energy Forum Jointly with 7th International Workshop on Sahara Solar Breeder (Tsukuba, Japan)	高部涼太 (数理物質科学研究科 ナノサイエンス・ナノテクノロジー専攻 博士後期1年)	末益崇教授(数理物質系) 都甲薫助教(数理物質系)
第88回日本産業衛生学会 優秀演題賞	鈴木瞬 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻 3年制博士3年)	松崎一葉教授(医学医療系)
日本セラミックス協会 2015年年会優秀ポスター発表賞	中越悠太(数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期1年)	鈴木義和准教授(数理物質系)
第23回原子力国際会議(ICONE-23) Best Paper Award	齋藤慎平 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期2年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子准教授(システム情報系) 金川哲也助教(システム情報系)
日本語教育学会 林大記念論文賞	小野塚若菜(人文社会科学研究科 国際日本研究専攻 博士後期2年)	今井新悟教授(人文社会系)
Best Poster Award of the 42st IEEE Photovoltaic Specialists Conference (New Orleans, USA)	馬場正和(数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士後期3年)	末益崇教授(数理物質系) 都甲薫助教(数理物質系)

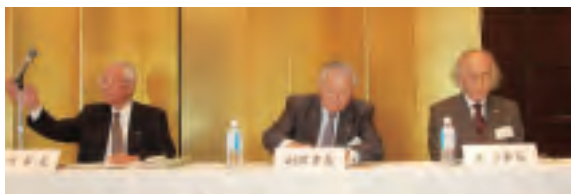
※所属、職名、学年は受賞時

MEIKEIKAI 茗溪会

筑波大学同窓会を母体とする
一般社団法人

茗溪会(平成27年度) 第4回定時総会の開催

一般社団法人 茗溪会(平成27年度)第4回定時総会が、平成27年5月21日に茗溪会館において開催されました。江田昌佑理事長の挨拶に続いて、西川潔副理事長が、永田恭介学長の祝辞を代読されました。次いで、議案として、平成26年度事業報告、決算報告、平成27年度事業計画(案)及び予算(案)並びに役員の選任について審議され異議なく承認・選任されました。また、茗溪会拡充キャンペーン、代議員選挙、茗溪会館の利活用について報告があり、定時総会は予定された議案の審議と報告が滞りなく終了しました。総会終了後は、会場を4階(筑波・新泉の間)に移して、会員懇談会が開催され、和やかに懇談が行われました。



北京同窓会(北京校友会、北京茗溪会) 懇談会に学長出席

平成27年4月11日、北京光明飯店において北京同窓会(北京校友会、北京茗溪会)懇談会が開催され、永田学長が出席されました。「北京茗溪会」は中国在住の本学卒業生のネットワークで日本人の駐在員が中心ですが、日系企業に働いている中国人卒業生も多く入会しています。懇談会では、「北京校友会」と「北京茗溪会」の目的、協力関係などについて活発な意見交換がなされました。

茗溪会つくば地区公開講座

日時:平成27(2015)7月18日(土)14:00~15:30

場所:筑波研修センター

『花の魅力でおもてなし』～イングリッシュローズをあなたに～
講師:西川綾子(NHK趣味の園芸、水戸市植物公園園長)

SHIHOKAI 紫峰会

筑波大学父母会組織の
学生後援会

課外活動団体援助金

紫峰会では財政支援事業として、筑波大学の課外活動団体、それ以外の学生団体、それらを統括する学生組織、および学園祭やスポーツ・デーなどの学内行事に対して助成金を支給しています。その中で、課外活動団体援助金(以下、団体援助金)は大きな割合を占めていて、平成26年度の課外活動団体援助金(総額1,700万円)を平成27年6月までに支給しました。

各課外活動団体は決められた期間毎に収支計算書と領収書を所属する系の財務局に提出しています。これらを元にした基礎資料を三系や全代会の代表者で構成される学生財務会議の場に持ち寄り、学生同士が折衝し団体援助金配分額案を作成しています。そして、作成した案を紫峰会理事会で承認されれば、各系ごとに団体配分額案を作成します。この案が各系の系別責任者会議で承認されれば、各団体に紫峰会が現金、もしくは銀行振込にて援助金を支給します。

団体援助金は紫峰会の発足以降、このように学生たちが自主的に議論し、発展してきました。こうして支給された援助金は各団体で有効に活用され、団体運営に役立てられています。

平成26年度課外活動団体援助金支給額ランキング (上位50団体)

順位	サークル名	支給総額(円)	順位	サークル名	支給総額(円)
1	硬式野球部	1,073,376	26	医学バスケットボール部	188,034
2	医学アイスホッケー部	725,700	27	アメリカン・フットボール部	185,719
3	管弦楽団	637,535	28	医学水泳部	184,068
4	蹴球部	633,830	29	オリエンテーリング部	182,807
5	ラグビー部	554,340	30	バドミントン部	176,590
6	バドミントン同好会	491,825	31	筑波音楽協会	152,002
7	医学硬式庭球部	482,109	32	女子バスケットボール部	147,653
8	女子サッカー部	376,406	33	準硬式野球部	143,399
9	医学サッカー部	357,094	34	卓球部	143,234
10	舞踏研究会	356,615	35	サッカー同好会	137,047
11	E.L.L.(筑波軽音楽協会)	349,461	36	医学ヨット部	133,969
12	男子アイスホッケー部	333,901	37	剣道同好会	129,150
13	陸上競技部	330,628	38	サイクリング部	124,401
14	医学スキー部	316,346	39	男子ハンドボール部	124,188
15	吹奏楽団	315,903	40	アカペラサークルDoo-Wop	112,584
16	医学バドミントン部	295,114	41	女子アイスホッケー部	112,490
17	医学ゴルフ部	275,034	42	男子バスケットボール部	109,315
18	医学ラグビー部	273,364	43	JAZZ愛好会	106,316
19	海洋研究会	249,213	44	馬術部	105,952
20	女子バレーボール部	242,495	45	男子ラクロス部	105,188
21	津軽三味線倶楽部無絃塾	231,361	46	医学卓球部	104,841
22	水泳部	231,254	47	漕艇部	98,575
23	混声合唱団	210,581	48	TOJO K-ON	94,752
24	体操競技部	209,888	49	女子ハンドボール部	92,671
25	軟式庭球部	190,229	50	男子ソフトボール部	92,606

病院総務部総務課
菊池晃子さん

今年中学生になった長男。野球部に入部しましたが、きっ

かけは出不精な彼を見てこのままではまずい!と思い隣の小学校のスポーツ少年野球チームに入部させたことでした。なかなかチームに馴染めずお昼後は必ずと言っていいほどグラウンドの隅でリバース。エラーを監督に怒鳴られ→涙涙…そんな姿を見て「もう辞めてもいいよ」と何度言いかけたか。でも本人がその言葉を口にすることはありませんでした。一番記憶に残るのは6年生最後の試合。センターオーバーの2ベースヒット。ナイスバッチ!!とても嬉しかったです。これからは野球の追っかけは続きますが、自分の新しい事にも挑戦していきたいです。

今回は、総務部総務課の山田麻紀さんです。
「年下なのに頼もしいまきちゃん。いつも頼りにしています!」



筆者 一番右

医学医療系助教
メイヤーズ
トーマス デイビッドさん

私はウインドサーフィン、ギター、絵画など、沢山の趣味があります。今、夢中なのが、SUPです。SUPはStand Up Paddle boarding の略です。サーフィンに似ていますが、ボードは大きくて安定感があります。更に違うのはボードに立ち、櫂(かい)で漕ぐところです。波に乗ることもできますが、穏やかな海や湖、川でも楽しめます。SUPの良い所はカヌーのように座わるのではなく、立ってするところです。それはまるで水面を歩いているようで、自由を感じることができます。SUPが好きなのは日本の美しい景色や水鳥、魚を見ることが大好きだからです。そして最高なのは家族と一緒に楽しめること一子供たちの笑顔です。

今回は、附属病院病院講師(国際連携推進室)のザボロノク アレクサンドルさんです。「ベラルーシのイケメンドクター。病院の国際活動では大変お世話になっています」



リ シ ー イ ッ セ イ

>>>

病院総務部医事課(栄養管理室)
岩部博子さん

“美味しい記憶”私と料理の出会いはおそらく幼い頃初めて出会った外国の絵本。見たことない料理やお菓子を見て、「どうやって作るのだろう」と思っていました。10代の頃は、アガサクリスティの小説にでてくるお菓子が魅せられ、当時は珍しかった海外の食材を自ら取り寄せ、イギリス伝統のお菓子を作っていた記憶があります。“人にはそれぞれ食への思いがある”そんな気持ちを大切に、今は患者さんの食事療法に取り組んでいます。これからは、趣味と実益を兼ねて、アンチエイジング料理を探索してみようかとポリフェノールたっぷり赤ワインをグラスに注ぎ思いをめぐらせている私です。

今回は、附属病院リハビリテーション部理学療法士の鈴木康裕さんです。
「患者さんの治療は、食事療法と同様、運動療法は欠かせません。いつも熱心に指導されている鈴木さんです」



社会人大学院等支援室
遠藤信貴さん

休みの日には、娘と公園に行ったり、家でお人形遊びをしたり等、遊び相手とお世話で一日の大半を過ごしています。娘がまだ父親になついているのはありがたいことですが、気がつくと、独身貴族の人達に羨望の眼差しを送ってしまう今日この頃です。欲を言い出したら切りがありません…。もう少ししたら、娘が生まれたのを機に遠ざかっている趣味のスケートをまた精神的に始めて、縮こまっている羽を伸ばしたいなぁと思いつつも、家庭円満のためには、こちらはハーフハーフとはいかないようです。

今回は、東京キャンパス事務部学校支援課の込谷知草さんです。
「同期の込谷さんとは、部署は異なりますが東京キャンパスで一筋に働いており、いつもお世話になっています」



生命環境エリア支援室
秋山和浩さん

東京勤務の頃、夜間大学院の仕事を終えるのが定時でも21時過ぎ、すると途端に電車の乗り継ぎが悪くなります。この移動時間を有効に使えないものかと地図を辿ったら、茗荷谷とTX新御徒町駅が春日通りでつながっているのを発見。距離にして5キロ弱。走るのに丁度良いと思い、さっそく翌日から帰宅ランを実行しました。予想どおり、走って移動してもTX新御徒町駅で同じ電車に乗れ、時間を有意義に使えた気分になります。都心を走るという感覚も新鮮で、飽きることなく3年間楽しめました。ランニング習慣は、今も昼休みランとして続けています。あと5年半、還暦までは続けたいと思っています。



今回は、東京キャンパス事務部学校支援課附属中学校の安田伊織さんです。「東京で3年間一緒に働いた。自然体な感じの方で、時々事務室を和ませていただきました」

グローバル・コモンズ機構
塚本聖さん

民家もないような山道を走り続け、突然広がる風景。あまりの美しさと壮大さに思わず息をのむ瞬間だ。昨年家族で黒部ダムを旅して以来、ダムめぐりが趣味になっている。先日群馬県みなかみ方面にダムを求めて出かけた。利根川の上流部であり、ここには関東でも最大級のダムがある。写真はそのひとつ、奈良俣ダムである。土や岩で作られたロックフィルダムと呼ばれるダムで、自然に溶け込んでいる印象がとてよい。ダムめぐりのもうひとつの楽しみはダムカード収集。現地を訪れた者だけが手にできるレアアイテムだ。コレクションを見るたびに次はどこに行こうか楽しい悩みが増えていく毎日である。



今回は、芸術系准教授の李昇姫さんです。「一昨年、キャンパス国際化部門担当教員になっていただいたのをきっかけに、大変お世話になっています」

T S U K U B A C O M M U N I C A T I O N

企画室
飯塚桂子さん

写真は、泣き叫んで欲しがら子供たちにせがまれ仕方なく飼いはじめたウサギの「タッチ」です。「寿命は7年くらい。犬猫と違い薬が無いので、病気等になったら手当のしようがないから、覚悟して飼うように」と動物病院で言われましたが、早10年、特別病気もなく元気に暮らしています。昼間の空いた車庫内を自由にランニング?しているせいか、足腰もまったく弱った様子もありません。大学生となった娘の「タッチは他の人だと逃げるけど、お母さんには、くっついてくるね!」の言葉に「タッチがなついた分、少しだけれどお前たちが離れたよ」と心の中でつぶやく今日この頃です。



次は、医学医療系講師の小川良子さんです。「呼吸器内科の医師としても活躍、研修医を育てるだけでなく、4人のお子さんも育てていらっしゃいます」

生命環境エリア支援室
佐竹梓乃さん

5月から育休より職場復帰しました。育休中は息子とお出かけや、服やお菓子の手作りなど、色々やりたいことを思い浮かべて楽しみにしていましたが、慣れない育児に追われ、思ったほどはできずにあっという間に復帰となりました。おかげ様で息子はすくすく育ち1歳を迎えました。保育所に通うようになり、私の知らないところでできることが増え、成長がうれしい反面、何だか息子が遠くへ行ってしまったような寂しさを感じることもあります。出産前は旅行やライブが好きでよく行っていたので、今年の夏は一緒にフェスデビューできるといいなと楽しみにしています。



今回は、企画室の橋本宏之さんです。「本学で働き始めた時の上司です。大学で働くことのいろはを教わり、いつも楽しいお話をしてくださりました」

新聞記事一覧

本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(2015年4月～6月)

	記 事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	附属図書館で、よみがえる湯島聖堂本尊孔子像彩色復元特別展を開催	柴田良貴教授(芸術系) 守屋正彦教授(芸術系) 程塚敏明准教授(芸術系) 木村浩准教授(芸術系) 広報室	朝日(4.1/3)東京(4.3) 茨城(4.3/26)常陽(4.3/8) 毎日(4.6)
2	正田純一教授らの研究チームが、「脂肪肝は週250分以上やや強めの運動をすると改善する」と発表	正田純一教授(医学医療系)	日本経済・産経・常陽(4.4) 朝日(4.5)読売(4.7)
3	本学学生らが、「選挙公報ドット・コム」を開発	佐藤昌哉(社会2年) 羽成春香(社会3年)	毎日(4.3,4)産経(4.13) 東京(4.23夕/4.28)
4	4月6日に入学式を開催。学群生2205人、編入学等123人、理療科教員養成施設20人、大学院生2431人が入学	永田恭介学長	朝日・読売・東京・ 茨城・常陽(4.7)
5	本学は、放置自転車対策として、ICタグを使った登録制を導入	菊地文武専門職員(学生生活課)	産経(4.9)
6	松崎一葉教授と日経リサーチ、医療産業研究所は、ストレス診断、原因分析、事前予防のプログラムを開発	松崎一葉教授(医学医療系)	毎日(4.13)
7	「茨城乾癬の会」の設立総会を開催	古田淳一講師(医学医療系) 梅津努副看護師長(附属病院看護部) 附属病院	常陽(4.15/4.21)毎日(5.21)
8	本学は福島県双葉町と共同で東日本大震災の関連資料の保全および調査研究に取り組み、その成果をホームページ上で一般公開した	白井哲哉教授(図書館情報メディア系)	読売・茨城(4.17) 日本経済(4.17夕) 朝日・毎日(4.18)常陽(5.14)
9	戦後70年考える:五輪開催における嘉納治五郎の功績	真田久体育専門学群長(体育系) 清水諭教授(体育系) 嘉納治五郎元高等師範学校校長	読売(4.17)
10	アジアジュニア選手権で5冠を達成した、自転車競技界のホープ、梶原悠未選手	梶原悠未(附属坂戸高3年)	毎日(4.21夕)
11	山海嘉之教授が文部科学大臣賞を受賞	サイバーダイナ 山海嘉之教授(システム情報系 サイバニクス研究センター長)	毎日(4.23)
12	本学の社会貢献組織「筑波山ルネサンス」のメンバーら8人が執筆、前川啓治教授が編集した「筑波山から学ばうとき」を創造する」が出版された	前川啓治教授(人文社会系) 伊藤純郎教授(人文社会系)	常陽(4.24)
13	附属聴覚特別支援学校の山本晃教諭が、天気予報のフレーズを活用して言葉を学ぶプログラム「お天気メソッド」を開発	山本晃教諭(附属聴覚特別支援学校小学部)	日本教育新聞(4.27)
14	真田久体育専門学群長を座長としたシンポジウム 「高齢者の健康維持とスポーツ～スポーツイベントとスポーツ・フォー・オール」開催	真田久体育専門学群長(体育系) 「つくば国際スポーツアカデミー」(TIAS)	産経(5.8)
15	ラグビーアジアチャンピオンシップ 男子日本代表優勝 対韓国戦で福岡堅樹選手が3トライの大活躍	福岡堅樹(情報4年)	朝日・読売・毎日・日本経済・ 産経・東京(5.10)
16	本学は全国「道の駅」連絡会と、就業体験の実施に関する協定を締結	就職課	読売(5.14)常陽(5.16)
17	陸上関東学生対抗選手権 女子は、23年連続25回目の総合優勝 各種目1位 【やり投げ】久世生宝 【走り高跳び】平松祐司(大会新記録) 【3000m障害】津田修也 【ハンマー投げ】勝山眸美 【走り高跳び】寺谷諭美 【1600mリレー】薬師寺真奈、神保祐希、松本奈菜子、伊藤明子	久世生宝(体専3年) 平松祐司(体専1年) 津田修也(体専4年) 勝山眸美(体専3年) 寺谷諭美(体専1年) 薬師寺真奈(体専2年) 神保祐希(体専2年) 松本奈菜子(体専1年) 伊藤明子(体専2年)	朝日(5.16/17/18) 東京(5.17)毎日(5.18)
18	第25回古河市マスターズサッカー大会に永田恭介学長が出場	永田恭介学長	朝日(5.16)
19	国立病院機構霞ヶ浦医療センター内に、 「筑波大附属病院土浦市地域臨床教育センター」を開発	松村明附属病院長 福田妙子教授(医学医療系)	東京・茨城(5.19) 常陽(5.20/6.15)朝日(5.27)
20	北茨城市民病院附属家庭医療センター開所。 本学の教育拠点施設としての役割も担う	宮澤麻子家庭医療センター長(OB)	産経・茨城(5.20) 毎日(5.21)茨城(5.25)
21	第29回潮来トリアスロン全国大会で、藤田すみれ選手が2連覇	藤田すみれ(体専1年)	読売・茨城(5.25)
22	柔道のマスターズ大会で男子81kg級永瀬貴規選手が優勝	永瀬貴規(体専4年)	茨城(5.26)
23	春季関東大学女子バレーボール1部リーグ戦で、本学が6年ぶり22度目の優勝	中西康己准教授(体育系 監督) 帯川きよら(体専4年) 朝日優衣(体専3年) 井上愛里沙(体専2年)	朝日(5.25) 常陽(5.26)
24	交剣知愛 世界剣道開幕の前に 中:日本代表の竹ノ内佑也選手。 大学生が代表に選ばれたのは初めて	竹ノ内佑也(体専4年)	毎日(5.26)
25	剣道世界選手権個人戦で竹ノ内佑也選手が準優勝。剣道世界選手権男子団体3連覇。 竹ノ内選手が先鋒で勝利し、優勝に貢献	竹ノ内佑也(体専4年)	朝日・毎日・読売(5.30/6.1) 茨城(5.30)日本経済・産経(6.1)
26	「五輪・パラリンピック教育について」真田久体育専門学群長	真田久体育専門学群長(体育系)	毎日(5.31)
27	林純一特命教授らの研究チームは、皮膚細胞がiPSで回復すると発表	林純一特命教授(生命環境系)	読売(6.8)毎日(6.9)
28	タートル語大会 入賞 中村瑞希さん	中村瑞希(人文4年)	読売(6.8)
29	サッカー部 アミノバイタル杯準優勝 総理大臣杯の出場決定	中野誠也(体専2年) 北川柊斗(体専2年) 森本泰介(体専2年)	常陽(6.10)
30	本学が「つくば国際スポーツアカデミー(TIAS)」を開講。 10月から18ヶ月間の修士課程(スポーツ・オリンピック学)を設ける	清水諭教授(体育系 副アカデミー長)	毎日(6.16)

テレビ放送一覧

	内 容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	「異能vationプロジェクト」を紹介。 落合陽一助教の研究(三次元音響浮揚)と研究室、インタビューを紹介	落合陽一助教(図書館情報メディア系)	TBSテレビ(5.22)
2	学生で初めて世界剣道選手権に出場する竹ノ内佑也選手を追ったドキュメンタリー	竹ノ内佑也(体専4年)	MBS毎日放送(TBS系列) 「情熱大陸」(6.7)

※所属、職名、学年は2015年6月現在

Event calendar

7 july

- 1日(水) 春ABモジュール期末試験
- 3日(金) Global Commons Cafe
- 4日(土) 第7回天文学の七夕講演会 (つくば国際会議場)
- 7日(火) Cosmos Café(14日、21日)
- 8日(水) Cosmos Chat(15日、22日)
- 11日(土) 藻類屋外大量培養施設(栗原地区)見学会
- 12日(日) City Chat Café
- 18日(土) 入学試験「編入学」(~19日) 「帰国生徒(10月入学)」
夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊2015(~19日)
- 21日(火) TIA連携大学院サマー・オープン・フェスティバル(~9/4)
- 23日(木) ダイバーシティセミナーI
- 24日(金) 学際物質科学研究センター(TIMES)研究交流会 1D204
高校生アトラクター大賞シンポジウム(クリエイティブ・スペース「amu」)
- 25日(土) 夏休みアート・デイキャンプ2015展(茨城県つくば美術館)(~30日)
- 29日(水) 合格発表「編入学/帰国生徒(10月入学)」
- 31日(金) 春ABCモジュール期末試験(~8/6)

8 august

- 1日(土) 大学説明会(~2日)
- 5日(水) リケジョサイエンス合宿(~7日)
- 6日(木) 春学期授業終了
- 7日(金) 期末試験予備日
- 8日(土) 夏休休業(~9/30)
大学説明会

9 september

- 5日(土) ダイバーシティセミナーII
- 6日(日) City Chat Café
- 14日(月) エンパワーメント情報学プログラム
10月期一般入試入学願書受付(~21日)
- 17日(木) 第6回TIA-nanoシンポジウム
(イイノホール&カンファレンスセンター)
- 28日(月) Tsukuba Global Science Week (~30日)
フランス週間(~10/4)
- 29日(火) IIIS 睡眠医科学研究棟 開所式



※ 今号より表紙をリニューアルいたしました。
「Tsukuba COMMUNICATIONS」の愛称を「TSUKU COM(ツクコム)」とし、
今まで以上に愛着を持っていただけるよう広報誌作成に取り組んでまいります。

Information 体育会の試合日程および学生団体による公演・イベント等の情報

- 卓球部 第85回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)
7/16~19(場所/愛媛県松山市 愛媛県武道館)
- ダンス部 第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル
8/5~8(場所/兵庫県神戸市 神戸文化ホール)
- 弓道部 第63回全日本学生弓道選手権大会
8/11~13(場所/愛知県名古屋市 日本ガイシホール)
- 体操競技部 第69回全日本学生体操競技選手権大会
8/20~22(場所/新潟県上越市 リージョンプラザ上越)
- 水泳部 第91回日本学生選手権水泳競技大会
9/4~6(場所/静岡県浜松市 古橋廣野の進記念浜松市総合水泳場)

※ 詳細は以下のHPをご参照ください。

【筑波大学体育会】<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~taikukai>
【つくばスポーツONLINE】<http://www.sports.tsukuba.ac.jp/>

- ピアノ愛好会 アンサンブルコンサート
7/12 18:00開演(場所/つくば市 アルスホール)
- 写真部・写真部さくら組 合同展示
7/13~24(場所/学内 3A棟1階ラウンジ)
- つくば鳥人間の会 鳥人間コンテスト2015
7/25~26(場所/滋賀県松原水泳場・後日テレビ放映)
- REALJAM MEL'NIGHT
8/8 12:00~(場所/土浦市 club GOLD)
- つくばフォーク村 サマフェス
8/29~30(場所/学内 松美池)

【文化系サークル連合会】<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~bunsa/wiki/doku.php?id=index>
【筑波大学芸術系サークル連合会】<http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa>



「総合研究棟D」



University of Tsukuba

Tsukuba COMMUNICATIONS (筑波大学広報誌) vol.28 平成27年7月発行 編集・発行:筑波大学広報室

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1 電話:029-853-2063 E-mail:kohositu@un.tsukuba.ac.jp URL:<http://www.tsukuba.ac.jp/>